



KOCHI ART FESTIVAL 2020



第70回高知県芸術祭事業実施報告書

発行日 令和3年3月19日

発行 高知県芸術祭執行委員会
高知市高須353-2(公益財団法人高知県文化財団)
TEL 088-866-8013 FAX 088-886-8008

印刷 筒井紙業印刷株式会社
高知市石立町158 TEL 088-831-6569

令和2年度第70回高知県芸術祭

事業実施報告書

令和2年度 第70回高知県芸術祭 事業実施報告書

目次

令和2年度第70回高知県芸術祭を顧みて 高知県芸術祭執行委員会 委員長 新納 朋代	1
第70回高知県芸術祭 概要	2
助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2020」 募集要項・選考結果・実施報告・事業報告会	4
第49回高知県文芸賞 募集要項・応募状況等・文芸賞審査員・入選作品一覧	28
チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン&濱口典子 DVD配布、Web配信	31
共催行事	32
協賛行事	36
「KOCHI ART PROJECTS」助成金（新型コロナウイルス感染症対策）	46
＜資料＞ 高知県芸術祭執行委員名簿	

芸術祭とは

芸術祭＝広く県民が芸術に親しみ、
高知の芸術文化の魅力を再発見、
発信する期間



令和2年度第70回高知県芸術祭を顧みて

高知県芸術祭執行委員会 委員長 新納 朋代

今年で70回目を迎えました『高知県芸術祭』は、広く県民が芸術に親しみ、高知の文化芸術の魅力を再発見、発信する期間として毎年秋に開催しております。

今年度は、9月12日(土)～12月15日(火)を会期として設け、約3ヵ月にわたり、主催事業『高知県文芸賞』をはじめ、県内の文化・芸術団体にご参加いただき、共催行事19行事、協賛行事52行事、助成事業『KOCHI ART PROJECTS』13事業の計86の行事が実施されました。

本年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、当芸術祭の事業をはじめ、多くの文化芸術団体の開催事業も影響を受けたことと思います。コロナ禍の中、感染予防対策に努め文化芸術の火を灯し続けようと活動されている方々には頭が下がるばかりです。

当芸術祭でも新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は大きく、メインイベント「日露交歓コンサート2020」、70周年記念イベント「チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン」、「高知県文芸賞表彰式」の開催が中止となりました。主催イベントとして準備していた事業が相次いで中止となる中で、何か代わりとなる事業はできないかと検討し、70周年記念イベント「チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン」に出演予定であった3名のチェコ人演奏家と高知県出身のピアニスト濱口典子氏に依頼し、オリジナル映像を制作いただくこととなりました。制作した映像は希望者にDVDの無料配布又はWeb配信を行ったところ。コロナが終息した折には、また盛大にイベントを開催し、生の文化芸術を楽しんでいただける日が来ることを願っております。

今年で7年目となりました助成事業『KOCHI ART PROJECTS』では、15の団体・個人よりご応募いただき、審査の結果、14事業への助成を決定いたしました。その後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により1事業が中止となり、最終的には13事業の開催となりました。本年はコロナの影響もあってか申請団体に減少がみられましたが、そのような中、各採択団体の皆さまは各々の事業に全力を尽くしていたと思います。来年度以降も、より充実した内容の事業を県内の文化芸術団体の皆様が企画・運営していけるよう、執行委員会・事務局としても協力してまいります。

また、文芸の総合的な公募型文芸賞である、「高知

県文芸賞」は、49回目を迎え、今年も短編小説・詩・短歌・俳句・川柳の5つの部門で公募を行いました。応募総数は1645作品、総応募人数は527人となりました。全体的に応募作品数は微増傾向でしたが、川柳部門で大幅な増加が見られました。今年も幅広い年代の方々にご応募いただき、学校や学生個人からの応募も数多くありました。若い世代の方々が文芸に興味を持ち、積極的にご応募いただけることは大変喜ばしいことですので、私どもといたしましても、引き続き、若年層をはじめ高知県内の多くの方々に、文芸賞への応募を呼び掛けるなど、高知県の文芸の振興に寄与してまいりたいと考えております。

また、本年度は、7月中旬頃から新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、活動自粛を余儀なくされた県内の文化芸術関係団体などが、その活動を再開・継続する際に求められる感染防止策に必要な経費を支援するため、「KOCHI ART PROJECTS」助成金（新型コロナウイルス感染症対策）の制度を設けました。3月9日までを申請期間とし、現在までで多くの文化芸術団体にご活用いただいております。

本報告書では、令和2年度高知県芸術祭の成果をまとめております。各所よりご意見をいただきながら、より一層広報を充実させ、多くの県民に『高知県芸術祭』を承知いただけるよう、高知県芸術祭執行委員・事務局共に一丸となり努めてまいりたいと思っております。今後とも、より一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

〔事業数・参加人数〕

助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2020」：13事業・2,535人
主催事業「高知県文芸賞」：527人（1,645作品）
「チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン&濱口典子」
DVD配布・244人
Web配信・35人
共催行事：20行事（内1行事中止）・51,142人
協賛行事：55行事（内3行事中止）・50,978人

第70回高知県芸術祭 概要

《今年度の芸術祭を振り返って》

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けた1年でした。本芸術祭でも、主催事業のイベント2つと高知県文芸賞の表彰式が中止となりました。芸術祭参加行事におきまして、いくつかの行事が中止を余儀なくされたと聞いております。

助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2020」では、14事業が採択されました。開催場所は、県内多岐にわたっており、事業内容も音楽、美術、映画などを中心に拡がりが見えました。共催・協賛行事におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、参加行事が減少するかと思われましたが、各々がさまざまな対策を練られ、催しを開催される団体が多かったように思われます。この厳しい状況は、もうしばらく続くかと思われませんが、文化芸術は、人々の心を潤すことのできるコンテンツだと思いますので、団体様の活動をより一層事務局としてもサポートしてまいり所存です。

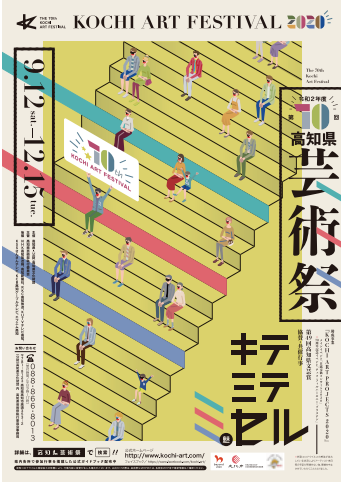
本年は、コロナ禍における新しい試みも行いました。中止となった主催イベント「チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン」に代わる、オリジナル映像を制作し、DVD配布又はWeb配信を行うものです。コンサートの臨場感をご自宅で家族や仲間とお楽しみいただけたらと思います。多くの視聴者から貴重な感想もいただくことができ、その内容からも満足 of いく内容であったことが伺えました。厳しい状況の中、映像制作にご協力くださいましたアルペジオ音楽企画様、高知から遠く離れたチェコ共和国と東京より素晴らしい映像を届けて下さった演奏家の皆様をはじめ、すべての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

49回目を迎えました「高知県文芸賞」でも多くの県民の皆様よりご応募いただきました。審査員の先生方のご協力により、審査は滞りなく行えたのですが、表彰式を予定していた12月中旬には、高知県内における新型コロナウイルス感染症の感染者が急増したことか

ら、参加者の皆様の安全を優先し、苦渋の決断で表彰式は中止とさせていただきます。受賞者の皆様におかれましては、表彰式参加を楽しみに過ごされていた方も多かったかと思います。記念すべき式典を開催できなかったことはとても残念でしたが、第50回目を迎える来年度こそは、コロナ禍を乗り越え、盛大に表彰式を開催したいと思っております。

また、本年度新型コロナウイルス感染症対策として新たに設けた「新型コロナウイルス感染症対策助成金」には多くの団体よりご申請いただきました。コロナ禍の中でも、多くの事業が万全な対策を取って事業を行い、来場者も安心して楽しめるような会場作りへの支援を少しではありますができたのではないかと思います。

令和2年度は、新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。状況が少しでも良くなり、県民の皆様が安心して文化芸術を楽しめる日々が戻ってくることを願います。コロナを克服した際には、令和2年度の芸術祭での残念だった思いを晴らせるよう、執行委員会、事務局一丸となって今後も取り組んでまいります。



開催期間 令和2年9月12日(土)～12月15日(火)
主 催 高知県・公益財団法人高知県文化財団
主 管 高知県芸術祭執行委員会
後 援 NHK高知放送局・高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・KCB高知ケーブルテレビ・エフエム高知
チェコ共和国大使館
※「チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン&濱口典子」についてのみ

令和2年度第70回高知県芸術祭 日程表

4月24日 「KOCHI ART PROJECTS 2020」募集チラシ・要項 発送(募集締切 5月29日)
芸術祭参加団体募集のご案内 発送
(募集締切 8月26日 ※芸術祭公式ガイドブック掲載希望分 締切 7月8日)
6月18日 第49回高知県文芸賞作品募集チラシ 発送(募集締切 9月30日)
6月19日 第1回高知県芸術祭執行委員会およびKAP審査会(高知県立美術館・2階会議室)

〈議題〉
令和元年度文化芸術振興ビジョン推進事業収支決算について
〈報告事項〉
芸術祭の進捗状況について ※執行委員会終了後、KAP一次審査会を開催

6月27日 「KOCHI ART PROJECTS 2020」二次審査会(高知県立美術館・2階会議室)
8月24日 芸術祭公式ガイドブックおよびポスター 発送
9月 6日 『ウマジアートブリッジvol4.馬路村をフィールドにしたアーティストインレジデンス事業』
一発掘される地域の魅力(KAP助成事業) ※11月15日迄
9月 8日 第2回高知県芸術祭執行委員会(高知県立美術館・2階会議室)

〈議題〉
助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2020」の視察について
〈報告事項〉
(1)共催、協賛行事の参加状況について
(2)KOCHI ART PROJECTS 助成金(新型コロナウイルス感染症対策)申請事業
の第1次交付決定について
(3)芸術祭の広報について
(4)芸術祭メイン・70周年記念イベントについて
(5)今後の日程について

9月12日 第70回高知県芸術祭開幕
『赤岡てらこや2020「あかおかJIZOづくり」』(KAP助成事業)
※及び、9月22日、10月3日 ※12月1日～6日は展示
9月13日 『襖学(ふすまなび)』(KAP助成事業) ※12月6日迄の内、4回
10月16日 第49回高知県芸術祭文芸賞審査会(高知県立美術館・2階会議室等) ※10月26日迄(内、5日間)
10月24日 メインイベント「日露交歓コンサート2020」※25日本山公演 ※両公演中止
『五感であそぶ おち新世界体験』(KAP助成事業) ※11月1日迄
『映画「いきたひ」上映と監督による講演及びフラ「祈り」の賛助出演』(KAP助成事業) ※10月25日迄
『「チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン&濱口典子」オリジナル映像DVD配布及びWeb配信』
募集案内開始
10月31日 『いしはら音楽祭～モミジ彩る三宝山 地福寺コンサート～』(KAP助成事業)
11月 3日 『まつお演劇まつり』(KAP助成事業) ※中止
11月14日 『第二回いっとひょう沈下橋アートプロジェクト』(KAP助成事業) ※12月14日迄
11月16日 『Artist in residence Kochi 2020』(KAP助成事業) ※12月15日迄
11月19日 『土佐和紙未来学校プロジェクト2020』(KAP助成事業) ※12月15日迄
11月22日 『懐かしい未来を土佐清水から発信! 車に乗って鑑賞する休校映画館』(KAP助成事業)
11月23日 『海辺の冬フェス2020』(KAP助成事業)
11月29日 『土佐を想う箏～紡ぐ～Concert』(KAP助成事業) ※及び、12月6日
12月12日 『高知県被曝者の肖像、遠洋漁業の記憶2020』(KAP助成事業) ※12月13日迄
12月13日 第49回高知県文芸賞表彰式(高知県立高知城歴史博物館ホール) ※中止
12月15日 70周年記念イベント「チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン&濱口典子」※中止
第70回高知県芸術祭閉幕
12月18日 「チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン&濱口典子」
オリジナル映像Web配信※12月28日迄

令和3年
1月18日 「チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン&濱口典子」
オリジナル映像DVD発送
1月24日 助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2020」事業報告会
(ちより街テラス・会議室1、2)
3月29日 第3回高知県芸術祭執行委員会(高知県立美術館・2階会議室)

注) KAP … KOCHI ART PROJECTS

申請案内

令和2年度第70回高知県芸術祭
参加団体募集のご案内

高知県の秋を彩る「高知県芸術祭」。多くの方のご協力により、今年で70回目を迎えます。今年も県内各地でご活動されている文化芸術団体等にご参加を募集します。

応募方法規定の申請書に必要事項をご記入のうえ、事務局までご提出ください。
※郵送、持参可。高知城史跡の伊予の電子申請も受け付けます。

応募の締め切り令和2年8月26日(水)【当日必着】

なお、芸術祭公式ガイドブック掲載を希望する団体は締め切りが、令和2年7月8日(火)当日必着となります。
※特設サイト(※)は募集対象外となります。募集要項が、Facebook上でのみの掲載となりますので、ご了承ください。

必ず「申請についての留意事項等」「ガイドブック・公式HP掲載原稿記入時の注意点」をご確認ください。

令和2年度第70回高知県芸術祭

会期令和2年9月12日(土)～12月15日(火)
主催高知県・公益財団法人高知県文化財団
主管高知県芸術祭執行委員会
連絡先高知県芸術祭執行委員会事務局(高知県立美術館)
〒781-8513 高知市東馬場3-2
TEL:087-860-5013 FAX:087-860-5009
k_apj@kaiju-sai@kochi-bunkazaidan.or.jp

助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2020」 募集要項

母
題
項

令和2年度高知県芸術祭開催期間中に実施されるもの

対象となる活動 **開催期間／令和2年9月12日(土)～12月15日(火)**

営利、宣伝、特定の政治又は宗教活動を目的としないもの
※事前の準備等に係る費用も助成の対象となります。 ※個人でも団体(NPO・実行委員会等)でも申請いただけます。

審査項目

- 創造性: 新たな視点や他分野・異業種との協働など事業内容に創意工夫があり魅力的な付加価値がみられるか。
- 地域性: 地域の課題解決に向け、地域住民(組織等)と連携するなど地域への貢献や地域の活性化に繋がる計画がみられるか。
- 持続性: 一過性のイベントではなく、将来のビジョンや長期的展望がみられるか。
- 波及性: 県民や団体等に幅広く情報発信を行うなど、事業を通して人々の交流を促進する計画がみられるか。
- 実現性: 事業実施に向けて具体的な事業計画がみられるか。また、申請書等の提出書類の不備がないか。

助成内容

助成／1事業あたり上限額 30 万円

※少額(10万円程度)での申請も可能です。
※審査会にて、提出された申請内容と申請額を助成額を決定いたします。
※過去に助成を受けたことのある団体も応募できます。

（本助成事業は、県内の文化芸術活動に関わる団体等の裾野を広げること
を主な目的としており、過去に3回以上助成を受けたことのある団体について
は、不採択となる可能性もございます。ご了承ください。）

申請方法

申請期間内に、規定の申請書様式(第1号～3号)に必要事項を記入し、高知県芸術祭執行委員会事務局まで持参、もしくは郵送にてご提出ください。

※申請に際しましては、**助成金申請の手引き**をご参照ください。
芸術祭公式HPからご確認ください。
※申請書様式は、芸術祭公式HPからもダウンロードできます。
※申請書様式を送付希望の方は、下記問い合わせ先までご連絡ください。
※申請後、電話等によるヒアリング、追加資料の提出等を求める場合があります。
※過去採択団体の実施報告等は芸術祭公式HPに掲載しております。
申請にあたってご参照ください。

助成条件

- 広報物等に指定クレジットを必ず記載すること。
(記載のない場合は助成交付を取り消す場合があります。)
※指定クレジットは、芸術祭公式HPからダウンロードできます。
- 高知県芸術祭執行委員会事務局が作成する広報物等への原稿作成協力ができること。
- 明確な会計経理を実施し、収支及び事業実施の証拠書類を保管のうえ、指示があった場合にはすぐに提出できること。
※助成団体については、領収書を含め収支の詳細について確認をいたします。
- 指定の様式により実施報告書を提出すること。(事業終了後1ヶ月以内。)
※採択された事業は高知県芸術祭執行委員会等が視察します。
- 後日開催予定の事業実施報告会に**必ず参加**すること。
(令和3年1月24日(日)開催予定)
※報告会参加に伴う旅費等の費用は各自ご負担ください。

申請締切

令和2年 **5月29日(金)**

※当日必着(持参の場合は、17時まで)



THE 70th KOCHI ART FESTIVAL SUBSIDY PROGRAM

〒781-8123
高知県高知市高須353-2 (公財)高知県文化財団 内
高知県芸術祭執行委員会事務局

公式HP / <http://www.kochi-art.com/>
Facebook / <https://www.facebook.com/kochi.art/>

KOCHI ART PROJECTS 2020

に関する問い合わせ先 ☎ **088-866-8013**

FAX / 088-866-8008 [受付時間/平日9:00～17:00]

✉ k_geijyutsu-sai@kochi-bunkazaidan.or.jp

《地域×アート》をコンセプトに高知県内で開催される文化芸術活動に助成等の支援を行います。

選考結果

15団体・15事業応募、14団体・14事業選定 ※内、1事業中止

事業実施報告

※原則として、事業終了後に提出された実施報告書をもとにしています。
※順番は、公式ガイドブック掲載順です。

赤岡てらこや2020「あかおかJIZOづくり」

団体名: 冬の夏祭り実行委員会

開催期間: 【JIZOづくり】令和2年9月12日(土)・9月22日(火・祝)・10月3日(土)
【街並み展示】令和2年12月1日(火)～12月6日(日)

会場名: 【JIZOづくり】おっこう屋(香南市赤岡町448-1)
【街並み展示】香南市赤岡町横町商店街他路地

入場者数: 約400人



事業の内容

今年中止になった「冬の夏祭り」と同じ時期(12月1日～6日)に、赤岡町横町商店街の街並みにみんなで作ったたくさんのJIZOを並べようという企画。展示会までにできるだけたくさんの人にかかわってもらいJIZOを作る。冬の夏祭り以前作ったJIZOの作り方を土台としながら、和紙や石、粘土など、さまざまな素材で自由に個性的なJIZOを作ってもらおう。和紙JIZOの作り方は、講師を呼んだワークショップを計3回その他学校や借り家でのワークショップを計10回ほど開催。最終的に約100の個人・団体に参加していただき、300体ほどのJIZOを街並みに展示することができた。

成果・反響

5月ごろから準備を進めてきましたが、本当にJIZOは集まるのだろうか? 私たちはこの企画を町中の人たちに伝えていきました。地元赤岡の皆さんはじめ赤岡保育園、小学校、中学校、城山高等学校。そして銀行、郵便局、JA、市場など各種団体。また、普段「冬の夏祭り」に来たことのない方。ほとんどの方が企画に賛同し、「JIZOづくり」に参加してくださいました。

少人数での準備が進まず、気持ちが悪く落ち込んでいましたが、皆様から工夫を凝らしたJIZOが届くたび、その素晴らしさに感動し、学び、元気をもらいました。また、お地藏さんについての資料を提供してくれたり、街並み展示の作業を夜遅くまで手伝ってくださったり。いろんな方に助けていただきました。

助成を受けたことによってできたこと

- ・講師を呼ぶことができた
- ・JIZOづくりに参加してくれる人を募集するパンフレットをつくることができた
- ・空き家を借りることができた
- ・JIZOづくりに必要な土佐和紙を大量に仕入れることができた。このことにより、土佐和紙の新たな活用方法も見えてきた

(助成額:30万円)



襖学(ふすまなび)

団体名: すてきなまち・赤岡プロジェクト

開催期間: 令和2年 9月13日(日)～12月6日(日)

会場名: 赤れんが商家(香南市赤岡町773)

入場者数: WS参加者19人 視聴者数371人



事業の内容

香南市赤岡町の地域文化財である芝居絵屏風と類似した構造を持つ「襖」に着目し、襖の仕組みを学びその修繕過程をワークショップ及びオンライン配信によって学び、絵金文化や伝統建築文化に対する理解を深めました。ワークショップは、①襖の解体、②ふすまの浮け張り、③上張り、④枠の取り付けの全4回で行い、それぞれにミニレクチャーやオンライン工房見学などを行いました。

成果・反響

参加者の方からは、「貴重な体験をすることができた」、「伝統的な工法を学ぶことができる貴重な機会であった」、「家の襖でもやってみたい」、「職人さんから学ぶ機会がまたあれば参加したい」などの意見をいただきました。また、講師である上田さんから、「いい機会をいただき、とても楽しかった」との言葉をいただくことができました。

助成を受けたことによってできたこと

助成を受けることで、文化財修理等も手掛けておられる高知を代表する表具師である上田博章さんを講師として招聘することができ、表具について深く理解することができました。また、芸術祭に参加することで、これまで参加されたことのない方にもご参加いただき、広く活動を周知することができました。

(助成額:30万円)

**五感であそぶ おち新世界体験**

団体名: 廣瀬真也(越知町地域おこし協力隊)

開催期間: 令和2年10月24日(土)～11月1日(日)

会場名: 横倉山自然の森博物館(高岡郡越知町越知丁丙737-12)他

入場者数: プログラム参加者158人

※物販販売プログラム、イルミネーションは含まず

**事業の内容**

横倉山自然の森博物館をメイン会場に、越知町内の主要アクティビティを、「五感」をキーワードに繋ぎ、様々なワークショップやアクティビティを開催。

全てのプログラムが「越知町初」の内容であり、今後の定期的な体験プログラム開催に向けた検証の場の意味合いもあり。

成果・反響

①魅力的な体験プログラムが複数見つかった(バックヤードツアー、バードコール&バードウォッチング、コケトレッキング、床屋体験)

②旧大川薬舗という場所のポテンシャルの高さを実感(場所貸しサービスとしての活用、母親の集まりの場)

③その他の効果(アニメーション作りは、創造性とロジカル思考を養う教育プログラムとしても期待できる)

助成を受けたことによってできたこと

①魅力的な外部講師によるプログラム開催: 専門的な知識を保有する講師を呼ぶことで、プログラムの満足度が向上。

③フライヤー制作: 12のプログラムの魅力と内容をコンパクトに伝えるフライヤーが出来たことで、多くの人に情報を届けることができた。

(助成額:30万円)

**映画「いきたひ」上映と監督による講演及びフラ「祈り」の賛助出演**

団体名: エンドオブライフ・ケア高知

開催期間: 令和2年10月24日(土)・10月25日(日)

会場名: 10月24日(土)①桜座(高岡郡佐川町甲346番地-1)

10月25日(日)②つな一で(土佐市高岡町乙3451-1)

10月25日(日)③高知県立美術館ホール(高知市高須353-2)

入場者数: 360人

**事業の内容**

映画上演55分、続いて暗闇の中で監督長谷川ひろ子さんのピアノ演奏と臨終体験5分間。その後、会場を明るくして監督の講演1時間 20分。最後の会場(美術館ホール)ではマカナ・オカ・アイナ主宰の増田真理さんのフラによる「祈り」を上演。

成果・反響

目標とした啓発もチラシを通して、また会場に来てくださった方々には何らかの死生観が生まれたことと思う。

●観てくださった方の感想

スクリーンをつきぬけ胸に届くボイスとワード。観て終わりではなく観たらさいご、ずーっと居座る映画です。映画として作品として、私が目指し憧れたレベルのものを、どうあがいても追いつけない素晴らしいものであると、もう大満足で嬉しくて立ちすくんだままなんだろうと思います。だから、感想文の宿題の済まぬ中学生のように、落ち着かぬ気分で「あと何度も見たかったのに!誘いたい人がいっぱいなのに!」という焦燥感で過ごしています(笑)母の葬儀の前に見られて本当に良かった。感謝しています。

助成を受けたことによってできたこと

◆コロナで先行き不透明な中、事業実施するリスクはあまりにも高く、助成金を頂いていなければ早々に中止していたかと思います。また制限ある会場3会場の上映は「助成金のおかげ」その物です。本当にありがとうございました。(助成額:20万円)

**いしはら音楽祭～モミジ彩る三寶山地福寺コンサート～**

団体名: いしはらの里協議会

開催期間: 令和2年10月31日(土)

会場名: 三寶山地福寺(土佐町西石原1115)

入場者数: 約105人(【会場】約80人、【サテライト会場(3会場)】12人、【ライブ配信】13人視聴)

**事業の内容**

地域における本物の芸術文化に触れる機会の創出と地域内外との交流を目的に、土佐町石原地区の三寶山地福寺にて音楽イベントを開催した。開催にあたっては「気軽」「プロによる演奏」「いしはらならではの(独自性)」の3つの要素を重視。また、新型コロナウイルス感染症予防としてYouTubeでのオンライン配信や会場での検温・消毒などの対応を行い、コロナ禍でも楽しめるイベントを目指した。

成果・反響

観客の反響は下記のとおり好評であり、会場の良さや素晴らしい演奏などがこのような評価に繋がったものと思われる。

- ・入場料金に見合う以上の演奏が聴けた。
- ・会場のロケーションが良かった。
- ・(オンライン視聴で)いしはらにのような雰囲気を感じることができた。
- ・来年度もこの活動を続けて欲しい など。

助成を受けたことによってできたこと

この助成制度を利用したことで、当地域において、あまり存在しなかった本物の芸術文化に触れる機会を創出することができた。また、来年度もして欲しいといった反響もあったことから、このイベントが今後も地域において芸術文化活動をするきっかけをつくってくれたと感じている。この他、当日の会場には、このイベントに併せて地域住民が軽食などの物品販売を行っており、文化芸術以外の地域への波及効果があったことも良かったのではないと思う。(助成額:30万円)



海辺の冬フェス2020

団体名: サンドイッチパーラー

開催期間: 令和2年11月23日(月・祝)

会場名: ヤ・シィパーク芝生広場

入場者数: 100人以上



事業の内容

開催時間は10時～16時(ステージ演奏は11時～15時)で入場無料とした。チラシ・ポスターなどが作れずSNS告知のみで宣伝不足だったが、演奏開始の11時前から100人を超える来場者があつまり、入退場自由としていたのでステージ転換の合間には海の方へ遊びに行くなど、意図していた通りゆったり過ごしてもらえた。また、知らずに通りかかった人がステージを観にくることも多かったようで、宣伝効果以上に来場があったことはありがたい。なお、飲食ブースには囲いを設け、検温を実施した。

成果・反響

来場者: これで入場無料なんて信じられない。継続して開催してほしい。

出演者: 海外のフェスのようで気持ちよかった。次回もぜひ出たい。

出店者: 売上こそ多くなかったが、香南市を盛り上げる重要なイベントになっていくと思うので次回もぜひ参加したい。

助成を受けたことによってできたこと

第一回開催で不慣れだったことと、会場との調整が上手くいかず開催決定が遅れたため、極度の宣伝不足となり当日の来場者数が全く読めなかったことや、地元の企業らを巻き込んだ協賛集めができなかったことから、助成を受けなければ予算的に絶対に不可能だったと痛感した。しかし、今回出演者、出店者、来場者のそれぞれから次の開催への期待の声が多く聞かれたので、第一回目としては成功と言える。次からも助成を活用して、音楽関連のワークショップや体験コーナーの設置など内容の充実を図りたい。(助成額:29万1千円)



ウマジアートブリッジvol.4 馬路村をフィールドにしたアーティストインレジデンス事業—発掘される地域の魅力—

団体名: 村のカンパニー東風

開催期間: 令和2年9月6日(日)～11月15日(日)

会場名: 馬路村・杉の瀬橋(安芸郡馬路村大字馬路大家3760-3)

入場者数: レジデンス期間中の見学訪問者120人 発表イベント200人以上



事業の内容

村にアーティストや研究者を招き、村の者と協力して、村の資源を使って作品を制作する。また、それらの作品について発表の場を設ける。制作された作品は、村内に設置するなどして期間終了後も村の観光資材となるものもある。展示発表を第4回となる「ウマジアートブリッジ」の開催に合わせ、馬路村の橋の上をメインに行った。

成果・反響

・大きい柚子の作品がとてもよかった。村内に常設してほしい。(村外30代)

・魅力的なアーティストの活動を支援でき地域住民との交流の機会も多くあった。(村内30代)

・事業終了後にも作品のことや作家のことについて話題にしている様子もあり、地域住民にとっても豊かな時間であったと感じる。また、高知新聞やSNSなどでも取り上げられ地域の取り組みとして認知度が上がってきている。(村内30代)

・柚子の収穫の風景(集荷トラックの行き来、剪定した枝を焼く煙があがる様子、搾汁するゆずの香りなど)も展示物と捉えて紹介する企画の視点がいいと感じた。(村内30代)

・高知新聞をみて市内からきた。おもしろいイベントなので今後もたのしみ(村外50代)

・自由な表現が許されていていい挑戦の場となりいい経験ができた。(参加アーティスト)

・地域住民や役場職員たちの理解がもっと深まっていくといいと思う。(参加アーティスト)

終了後の反響

・SNSでイベントの様子を見て参加したいと思った(市内飲食店)

・助成金を使ってちゃんとやっているイベントだと感じた。(県内アーティスト)

・こんどは柚子の忙しくない時期に村民もたくさん参加できたらいいね。自分も準備も片付けも手伝いたい。(村内70代)

助成を受けたことによってできたこと

・実力あるアーティストや研究者を村に招致すること。

・滞在できる施設を借りることができた。

・多くの地域住民との交流を通して馬路村をフィールドにした作品作りを行うことができた。

・運搬費を補助でき大きな作品の展示が実現した。

・作品を展示発表する機会には多くの人が村外から訪れ、アーティストとの交流を通して地域のこれまでの話や今を知り体験する機会を作ることができた。

(助成額:30万円)



第二回いっとひょう沈下橋アートプロジェクト

団体名: 松葉川青年団

開催期間: 令和2年11月14日(土)～12月14日(月)

会場名: 一斗俵沈下橋、米奥小学校周辺、三堰キャンプ場

入場者数: 【本祭】約100人 【アーカイブ展示】約30人



事業の内容

松葉川地域に口伝で伝わる河童物語について、高知のアーティスト・地元劇団とともにその文化背景や地域の歴史を深掘りするリサーチを行います。リサーチの結果をもとに物語を作品化(アーティスト→立体造形、劇団→脚本)し、野外で展示および上演します。※状況に応じて四万十町や四万十CATVとの共働によるオンラインリサーチやオンライン展示などの対応を行います。

成果・反響

(以下アンケートより)

・谷干城ミュージカルややさこいなどがコロナでなくなるなか発表してくれてよかった。

- ・地域の河童物語がしっかりと劇になっていた、別の場所でもやってほしい。
- ・鉄の作品が不思議な存在感で面白かった。こどもたちの仮装がかわいかった。
- ・オープニングイベント（河童会議）が高知新聞で取り上げられました。
- ・四万十ケーブルテレビが撮影、年末特番として複数回様子が放送されました。

助成を受けたことによってできたこと

助成を受けたことにより、劇団しまんとおよびアーティストの現地リサーチを厚く行うことができたため、結果としてもともと計画していた地域に伝わる物語のほかにもう一つオリジナル脚本を作ることになり、また、より造形アーティストとの連携が強い作品を上演することができた。
(助成額:30万円)



土佐和紙未来学校プロジェクト2020

団体名: 土佐和紙未来プロジェクト実行委員会

開催期間: 令和2年11月19日(木)～12月15日(火)

会場名: いの町立伊野南小学校(吾川郡いの町八田2321)

入場者数: 37人



事業の内容

伊野南小学校の放課後体験学習教室の一環として東京(石山優太)・高知のアーティスト(浜田あゆみ・ハナカタマサキ・濱田公望)と県内から公募で集まった7名の子ども達が、伊野南小学前の奥田川に流れる絶滅を危惧されている植物をテーマにしたオリジナルソングに合わせた演劇やダンスを創作した。最終日にミニ発表会を行うとともにミュージックビデオを製作し、12月15日にYouTubeにて公開した。成果映像はYouTubeで「土佐和紙未来プロジェクト」で検索してください。

成果・反響

「こんな風な小さなワークショップがあちこちで開催されていることは、未来への大事な種蒔き作業、ありがとうございます!参加した子ども達は、いい刺激を受けて、ひとまわり大きくなったことでしょう」「素敵な映像の一部に子ども達も加わることができ、貴重な体験をさせて頂きました。今年はコロナ騒動でしたが、大変有意義な一年になりました。

助成を受けたことによってできたこと

このようなプロジェクトを各地、各学校で行えるとその学校内だけでなく、近隣地域とのつながりにも使える気がしている。今回はコロナ禍でお祭りができなくなり、その代わりとして映像作品をつくらうという運びになった。昨今の映像媒体の影響力を考えると映像によるアプローチはとても効果的だと実感した。単純な地域のPR動画ではなく、作品として子供たちとつくりあげていくことが大事なことでないかと感じた。

(助成額:26万8千円)



懐かしい未来を土佐清水から発信！ 車に乗って鑑賞する休校映画館

団体名: 土佐清水からドライブインシアター文化をつくる会

開催期間: 令和2年11月22日(日)

会場名: 旧土佐清水市立下ノ加江中学校 校庭
(土佐清水市下ノ加 2808-12)

入場者数: 21台(45人)



事業の内容

ドライブインシアター形式での映画上映、飲食屋台販売

成果・反響

- ・学校のグラウンドという場所、車の中とは言え人々が集まって映画を観るという体験がとても懐かしく、本当にいい機会を作っていただいたと感謝しております。
- ・手づくり感あふれる素敵な上映会でした。
- ・名作を息子と一緒に見られたのが嬉しかった。
- ・司会者の話が上手で面白かったので、プロの人かと思ったら地元の人だった。
- ・司会者の人が映画についての解説をしてくれたのが、映画の伏線になっていて、物語をより一層理解できて楽しめた。
- ・家の中にいるようにリラックスでき、寝転び、好きなお菓子を食べ、娘とワイワイ言いながら映画を楽しみました。小6の娘が字幕を読めるようになって、私の青春時代に感化された映画と一緒に楽しめる年になったかと、成長を感じられました。ぜひとも次回も観にきたいです。
- ・小5と中1の娘たちが、映画も、ドライブインシアターもとても楽しんでいました。車の中で周りを気にせず会話したり、笑ったり楽しいひと時でした。娘たちが同じ映画をレンタルしてくるほど、気に入ったようです。
- ・普段は別々の映画を別々に見るのですが、今回は車で乗り合わせたほうが良いと思い、久々に夫婦一緒に映画を観ました。夫も楽しかったようで、「次は日本の古い映画を観たいな。」と言っていました。
- ・自分の通った母校でドライブインシアターなんてできるのかと、初めて企画を聞いた時には驚きましたが、ラジオからの音声は良く、校庭に設置された巨大スクリーンも立派で、きれいに見えました。市外や県外の方もいらしていたようで、母校に人が再び集まってうれしいです。
- ・運営の方々が地域や映画に愛着を持って取り組んでいるのが感じられましたし、誘導や案内も丁寧で、地域外から参加しても疎外感を感じることなく気持ちよく参加できました。
- ・コロナ禍でイベントが中止になる状況下で、感染症対策に配慮した新しい形でのイベント形式を提案することができた。

助成を受けたことによってできたこと

- ・ドライブインシアターの企画そのもの。通常の屋内上映よりも会場設営や上映設備、人員が必要なため経費がかかり、採算性に乏しい。助成金のサポートにより、十分な人員確保と事前の試写を行い、ドライブインシアターを実施する体制を土佐清水市につくることができた。
- ・助成金を頂けたことにより、運営資金の担保があることで、市の後援や、地域住民の信頼を得る事ができた。

(助成額:30万円)



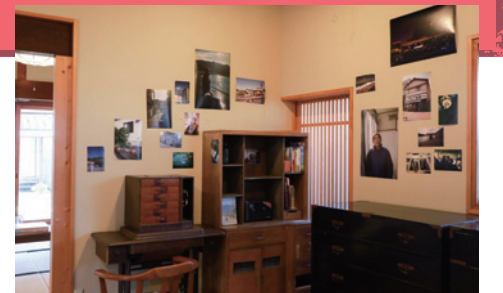
Artist in residence Kochi 2020

団体名: 特定非営利活動法人 地域文化計画

開催期間: 令和2年11月16日(月)～12月15日(火)

会場名: すさきまちかどギャラリー/旧三浦邸(須崎市青木町1-16)

入場者数: 351人



事業の内容

高知県で活躍する写真家 前田実津さんが須崎に滞在し、地域住民との交流や有形無形の文化資源との出会いを通じて、地域の歴史、文化、風土について学び、創作を行いました。撮影した写真は登録有形文化財である「すさきまちかどギャラリー/旧三浦邸」にて12月1日～15日まで展示を行い、写真データは須崎市のPRに自由に使えるフリー素材として須崎市や観光協会にお渡しします。また11月24日には須崎保育園にてインスタントカメラを活用したワークショップも開催しました。

成果・反響

- ・写真を通して散歩しているような、人の目線を追体験しているような、不思議なカンカクでした。

- ・本人が好きだから写真が好きなのか、写真が好きだから本人が好きなのか、そのどちらもだろうとこの写真たちを見て思いました。来て良かった。
- ・しがらみを感じない作品の数々心が和らぎました。

助成を受けたことによってできたこと

助成を受けた事で「Artist in residence Kochi 2020」の事業を実施する事ができました。また展示をするだけでなく、撮影したデータを須崎市や観光協会と共有する事で今後も地域のレガシーとなると思います。須崎保育園ではワークショップを開催し、撮影した写真を園児にプレゼントする事もできました。
(助成額:29万8千626円)



土佐を想う箏 ～紡ぐ～ Concert

団体名:松村紫乃&グループ琴

開催期間:①令和2年11月29日(日)②令和2年12月6日(日)

会場名:①百年舎(国登録文化財)平屋和風座敷
(香美市土佐山田町東本町2丁目2-15)
②高知市立自由民権記念館・民権ホール
(高知市棧橋通4丁目14-3)

入場者数:①25人
②76人



事業の内容

香美市の「序章」では、最近では身近に感じる事が減った邦楽の魅力を地域の皆さんへ伝えるため、箏や三味線の歴史や、楽器の仕組みの説明などを交えたコンサートを開催。高知市の公演は、中国の楽器である二胡をとりあげ、箏が歴史的に果たした中国との交流をテーマとしたコンサートを開催。古来中国から伝来した日本の古典楽器の箏における、古典音楽から現代音楽への伝統と伝承、また二胡との共演による、二国の絃と絃で紡いだ交流を図る事をテーマとした。松村紫乃&グループ琴は、高知を題材とした曲を数多く委嘱・上演し続け、高知での邦楽普及に注力してきたが、今回は一般の方へのワークショップを事前に開催し、当コンサートに出演して頂くことで、邦楽器、民族楽器の面白さ、練習成果を発表する達成感を体験してもらう事も一つの目的とした。

成果・反響

- ・普段は演奏準備の整った楽器しか見たことが無かったが、琴柱の立て方や、三味線の竿が組み立て式になっている事、楽器の素材が理解できた。
- ・永遠の灯火の演奏は、本当に感動する。涙が自然と溢れる。また聴きたい。
- ・(ワークショップ参加曲の)さんさんさくらは、わずかな時間で(参加者が)演奏できるようになるなんて、凄い。

助成を受けたことによってできたこと

助成により、二胡や17絃の奏者を東京から招聘することができ、高知の皆さんが普段あまり耳にすることがない音楽を上演する事が可能になった。また、高知の中でもあまり演奏することのなかった香美市での演奏も可能となり、香美市のみなさんにも邦楽を聴いていただき、地域内で身近に楽しんでいただくことができた。
(助成額:20万円)



高知県被曝者の肖像、遠洋漁業の記憶2020

団体名:Empty space × 幡多高校生ゼミナール

開催期間:令和2年12月12日(土)・13日(日)

会場名:高知県自由民権記念館・民権ホール
(高知市棧橋通4丁目14-3)

入場者数:38人



事業の内容

ビキニ水爆実験による高知県被害者の方々の証言を、2020年は高知西部の証言をまとめドキュメンタリーとして撮影、上映。

成果・反響

(お客様からの反応)

- ・高知の強い方言もあって、はっきり聞き取れない部分もあるけれど、言葉を介さなくて発される力。伝わってくる想い、情景、時間、それ以上の余白の大きさと、10人のインタビュー、というただの数字とのギャップがものすごくあった。
- ・事件をとらえる上で被曝した数字を聞くのと、一人一人から証言を聞くのでは重さが違うことを痛感した、とても一人の人生とは思えない。

(証言に出演してくださった方の感想)

- ・カメラの前で話している当事者の表情と言葉だけで編集されている。私もけっこうリラックスして父親の記憶を話している。父の人生を語るには母抜きには語れないわけで・・・母のことをこんなに淡々と話せる年になったのだナと映画とは別の所で感慨深い。心に閉じ込めていたことをカミングアウトすると、「もう怖いものはない」みたいな気分になる。

助成を受けたことによってできたこと

- ・撮影範囲の拡大。
- ・コロナ禍での移動、撮影、上映においての感染対策が可能になった。
- ・助成を受けたことにより撮影許可がとりやすくなった。
(助成額:15万円)



助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2020」 事業報告会

開催日 令和3年1月24日(日)
会 場 ちより街テラス3F会議室
参加者 32名(報告者含む)

<プログラム>

- 1.あいさつ 高知県芸術祭執行委員長 新納朋代
- 2.助成事業報告(13団体)

～議事抄録～

①冬の夏祭り実行委員会『赤岡てらこや2020「あかおかJIZOづくり」』



12月1日から6日に行われました赤岡地蔵町並み展示。「なぜ地蔵なの」といろんな方から質問をいただきました。お地蔵イコール宗教という方もたくさんいて、「怖い」など、いろんな意見もありました。私たちの中でも、地蔵は神的な存在というよりも友であり分身であり、アートとしての作品でもあります。それぞれの心の中にある思いが込められた、この不安な時代に寄り添ってくれる温かい存在です。5月頃から準備を進めてきましたが、本当に地蔵は集まるのだろうか、私たちはこの企画を町中の人たちに伝えていきました。地元赤岡の皆さん始め、赤岡保育園、小学校、中学校、城山高等学校、そして銀行、郵便局、JA、市場など、各種団体、また、ふだんの冬の夏祭りに来たことのない方、ほとんどの方が企画に賛同し、地蔵づくりに参加してくださいました。少人数での準備が進まず、気持ちが落ち込んでいましたが、皆様から工夫を凝らした地蔵が届くたび、そのすばらしさに感動し、学び、元気をもらいました。また、お地蔵さんについても、資料を提供してくれたり、町並み展示の作業を夜遅くまで手伝ってくださったり、いろんな方に助けていただきました。当日は静かな横町商店街にいろんな地蔵たちが並び、「赤岡JIZO物語」として作者さんの込めた思いを書き込んだパンフレットを配布しました。コロナ禍で心が沈みがちなみんなの心が、地蔵の並んだ通りを歩くことで少しでも和み、温かい気持ちになれたことは、この企画を行って本当に良かったと思います。

「赤岡JIZOを作ろう」、実はそのお地蔵さん、冬の夏祭り第17回目のときにこの3体を作ったのを、おっこう屋の花瓶に3体ずっと置いていました。それを見て、近所の魚屋のおんちゃんが「これが100体ばあ並んだらすごくいいよね。センターに並んだらいいよね」って言ってくださった言葉から、赤岡は再生のものづくりが中心なので、この人の一言から私たちが決心することができました。そして、第1回目のときに一緒に声を掛けてくれた得丸成人さんを講師に呼んで始めることにしました。どういう作り方かという、風船を膨らまし、その上に新聞紙を貼って、和紙を4回ぐらい貼って作りました。ヤザマ蒲鉾店が空き家を貸していただきまして、そこで何回か得丸さんと呼んで、他の人に伝えるために寺子屋をしました。保育園、小学校、高校、みんなが参加するように、自分たちは覚えてそれを伝えに行くことになりました。小学生が作ったお地蔵さんをなぜか何も言わないのに、その前で一生懸命お祈りをしていたことが私たちの思い出の一つとなっています。

一番困ったのが、「こんなことやってコロナがうつたらどうするのか」と1本の電話がありました。どういう対策をするのか、徹底して、温度を測ってシール貼って、全部やっていますよという事をどなたが見ても分かるように行いました。町並み展示は、毎日朝夕の出し入れの繰り返しでしたが、皆さんが雨が降ったらと町内の空き家や、家、軒先も貸してく

ださって、地蔵を飾ることができました。

□質疑応答

Q:報告の中に、最初の段階では1,000体作れたらというお話がありましたが、結局何体作られたのでしょうか。展示だけでなく、人気投票やその結果発表があったのですか？

A:300体でした。人気投票もしました。終わったので片付けるのではなく、各店に今も飾られています。赤岡の12月1日から6日間で終わったわけではなく、いろんなお地蔵さんが今各店にあって、今も赤岡JIZO物語は続いています。

②すてきなまち・赤岡プロジェクト『襖学(ふすまなび)』



私たちは香南市赤岡町に位置する初代赤岡村長の邸宅、赤れんが商家の再生、活用プロセスを通して赤岡町の伝統文化である絵金の祭礼文化の継承や伝統建築文化の普及を目指すとともに、まちづくりの担い手育成を目指して活動している団体です。

これまで継続的に行ってきた活動といたしまして、赤れんが商家での周辺ワークショップを行い、参加型の伝統工法の学びの場を設けてきました。また、赤れんが商家を舞台とした演劇やダンス公演を行うなどアートプロジェクトと共同した活用も進めてきました。地域との連携といたしまして、中

学生ボランティアと連携して赤岡町内の施設や民家を掃除したり、赤岡町で行われる冬の夏祭りなど地域イベントへの出展なども行ってきました。多様な主体と連携しながら地域での活動を行ってきました。今回の芸術祭では、絵金の芝居絵屏風と似た構造を持ち、しつらえの一つであるふすまの修繕を通して伝統建築文化の理解を深めることを目的としたワークショップ襖学(ふすまなび)を企画いたしました。

ワークショップでは表具師の上田薫風堂、上田博章さんに講師をお願いして、全4回のワークショップを行いました。コロナ対策として、一般参加の人数を5名と制限して消毒やマスク着用した上で十分に換気された空間にて実施をしました。参加人数が限られるためYouTubeによるオンライン配信も行って、それぞれの回に学びの場を設けて充実したワークショップとなることを目指しました。ワークショップを振り返りまして、今回初めての試みとしてオンライン配信を行ったのですが、技術面の対応やスタッフの配置、カメラワークなどに苦労いたしました。しかしながら、事前に準備したことでワークショップに加えて学びの場を設けるなど、毎回充実したプログラムを提供させることができたと感じております。ワークショップを通して下貼りの工程や使われる和紙の種類、その理由など深く掘り下げていくことで伝統技術やふすま、和紙そのものの魅力も発信することができたのではないかと感じております。また、ワークショップの中で下貼りから赤岡の歴史を発見することもできまして、古いふすまの解体が地域性を知る有用なワークショップ手段であるということも感じられました。最終回には赤岡の町並みJIZOと連携して地蔵に訪れた方にもワークショップを見ていただくことができました。

今後の展開といたしまして、これまで行ってきた活動に加えてクラウドファンディングなどで建物を大規模修繕していきたいというふうに考えております。その際にも、今回のように伝統建築文化の魅力を発信する機会を引き続き設けていきたいと考えております。

□質疑応答

Q:オンライン配信をされていましたが、何か次につながるような建設的な意見などが、視聴された方からいただけましたか？応募してくれた方は地域の内外で何人ぐらいでしたか？

A:初めての試みで、ライブ配信をやるということに関して、画面ががたついたり、少し止まったりしたことがあったので、そういうのがないようにしていこうと。いろんな方からご指摘をいただいたりしたので、人数的にも今後も参加者

数増やして入っていただくということがここ1年、2年間厳しいことが続くと思うので、ぜひまたユーチューブ配信等々することがあればいかしていきたいなと思っております。応募は定員か、5人とか4人とかそんな感じでした。

□意見

・ケーブルテレビなんかもあるので、関心を広める手法はやりようによって、もっと幅広く広報できたような可能性があったのではないかなと思うので、次回に活かしていただければと思います。

・オンライン配信っていうのはかなりポイントが高いと思います。現在もアーカイブなどで見られるということで、記録として大変質が高く、それ自体が文化財という感じがします。かなりの技術が必要であると思いますし、それに伴う経費もかかると思いますけれども、それに芸術祭の助成金がうまく使われていて大変良かったのではないかと思います。

③廣瀬真也(越知町地域おこし協力隊)『五感であそぶ おち新世界体験』



まず初めに目的がそもそも二つありまして、新しい越知町の魅力を作るということが一つです。もう一つが、新たな観光プログラムの可能性を検証したい。この目的に至った背景というのが、私が地域おこし協力隊として今、約2年がたちます。ただ、その中で自分が魅力として感じていることがなかなか今の町の観光プログラムに活かされていないなというふうに常々感じていました。何か形として一つ残していききたいというのが自分のそもそもの話のきっかけになっています。

目的に対する効果としては三つありまして、一つが魅力的な体験プログラムが複数見つかったということ。やっぱりやってみて分かることはたくさんありまして、そういうのが見付かったのは一つ大きな成果ではあります。あと、今まで使われてない町中にあるすごく立派な建物があるのですが、その場所のポテンシャルというのを改めて確認できたというのが二つ目です。最後はその他の効果ですが、今回小学生と一緒にアニメーションづくりをし、単純にアニメーションというところだけでなく、小学校の子どもたちに対して創造性とかロジカル思考を養う教育プログラムとしても期待できたものだったというのが私の総括です。

各プログラムの参加者の一覧は、基本的には私と町内の事業者さんと連携して各プログラムを開催しています。158名以上の方がプログラムに参加していただきました。町内、町外の比率は4:6ぐらいの感じでした。

中身の話は、例えばバードウォッチングのプログラムですが、バードコールといい、鳥の鳴き声に似た音を出すものを作り、博物館の周りの森をフィールドにして実際に鳴らしながら鳥を呼んでみる。実際、鳥は余り来なかったんですけども、皆さんすごく満足して帰られました。

次に、博物館の中のバックヤードツアーをやってみました。やってみて分かったのが、大人の反応が子どもよりもすごくいい。もっと博物館のほうでも、今度やってみたらいいのかもしれないなというところです。

よこぐら苔テラリウムは、越知町に横倉山というのですが、ここには400種類もの苔があり、苔の聖地と言われているぐらいです。それを使って身近な苔ギャラリーを作ってみようというのがこのプログラムです。子どもたちにもすごく人気のプログラムでした。

運営の振り返りについて少しお話ししますと、まず企画準備段階で良かった点は、実質一人で運営してまして、スムーズにできたというのが一番大きかったです。ただ、その一方で苦労した点は、やはり細やかな配慮や、より多くの人のために情報共有を行うことや、プログラムの質にしても、いろんな人がもっと関わったほうが良かったなというのが、自分自身、客観的に思っているところです。

□意見

本当にいろんなメニューがあり、参加された方は本当にふだん味わえない非日常の体験をされていて、すごく生き生きとされているという印象を受けました。皆さん親子で楽しまれていて良かったと思います。横倉山の苔というのは余りまだ知られてないと思うので、ぜひその辺のところも広く知ってもらえるような取り組みを続けていただければ

ばと思います。子どもたちが作ったアニメーションは、仁淀川の良さというのをみんなで再認識して、環境問題も考えつつ作ったというアニメだったと思いますので、ぜひ続けていただければと思います。

④エンドオブライフ・ケア高知『映画「いきたひ」上映と監督による講演及びフラ「祈り」賛助出演』



＜臨終体験映像上映＞

先ほど少し見ていただきました、画面が真っ暗な中に息を吸います、吐きます、という臨終体験は私たちにとって衝撃的でした。映画の上映が終わりまして、すぐこの臨終体験というものを体験しました。その後、監督の講演、佐川そして土佐市、高知市のフィナーレ会場として美術館ホールでは、祈りというフラを上演しました。

私たちは誰もが経験をしたことのない高齢化社会をどう生きるかということをテーマにして、2018年の12月頃から活動をし始めました。去年はこの高齢化社会で医療や介護、そ

ういったところが切迫してくるという中で、私たち当事者、一般市民はどういうことができるのかということでは、まず支え合える、そして在宅で家族を看取る。そういった看取りの学習、いわゆる援助者養成基礎講座、こういったものを学習しました。こういった活動を始めましたら、みんな意外と当事者というか一般の方々は2025年って何が起きるのか、そのときはそのときのことよといったような状況でした。これは毎日新聞の医療プレミアから取ってきたものですが、やはり高知県は高齢化も全国より10年先行しているのに関わらず、意外と私たちは平和で問題視、危機感を持っておりません。そんな中で一番危機感を持っておられたお医者様、そういった先生をお招きして、2019年には指導者養成の基礎講座を100人、県立大学で行いました。そして2020年、ドキュメンタリー映画の「いきたひ」という上映をいたしました。この誰もが経験をしていない高齢化社会をテーマとして取り組んだ私たちが、よもやまさかこのコロナのことで、誰もが経験をしていない世界に出くわすとは思っておりませんでした。そのコロナのお陰で会場、美術館ホールも借りられましたし、恩恵はありました。桜座、110名、つな一で90名、美術館ホール160名という方々がおいでくださって、スタッフ3会場合わせまして50人が関わりました。

たまたまこの映画の後、お母様を亡くされたという方からお便りをいただきました。高知で活動されておりますMakana o ka 'ainaの主催者、増田眞理さんがフラで「祈り」を伝えてくださいました。山の花でレイを作り監督にはお持ち帰りいただきました。そのような活動でしたが、本当にこの文化財団さんからの助成をいただきましたお陰で、3会場という最初は計画してなかった3会场上映をできました。そういった資金面でのご援助いただきましたこと、そして社会的に皆様方に知っていただける社会的認知度、こういったものもいただけましたがなお一番有り難かったのは評価をいただいたことです。これはまた次への活動のまたヒントになるということで、本当にありがとうございました。

□質疑応答

Q: 今後事業の意味、特に人々がどう思い、どうエネルギーを得て、どう理解を得て共生社会を作っていくかという今後の動き、活動についてどのように考えられていくのかということが重要です。映画だけで終わりというわけではないので、お聞かせいただければと思います。

A: 文化芸術をセットしていく、コラボしていくことによって、伝える力というのがとても大きかったと私自身も思いました。今までは有るものをテーマとして共通のものを借りてきて私たちは学習をしてきましたが、できることなら私たちがそういったものを作り上げていきたい。例えば劇で劇化してもいいだろうし、私たちが作ることによって啓発手段、芸術的文化的なものを使って啓発手段を作ることによって作る側がより問題意識を持つ。そして見ていただく方はより身近なものの上演によって理解しやすくなる。親しみを持ち、共に考えることができるだろうと。次の課題としては、私たちが啓発を文化芸術で何か作り上げていきたいというように思っております。

⑤いしはらの里協議会『いしはら音楽祭～モミジ彩る三宝山地福寺コンサート～』



日時としまして、令和2年10月31日の土曜日の13時から16時半に開催いたしました。13時開場、14時開演となっています。会場は、三宝山地福寺という、土佐町の西石原にあるお寺を会場としました。料金は大人一般が1,000円、小学生以下が無料、定員は40名です。出演は、地元の方とジャズピアニストの鈴木琴栄さん、瀬戸フィルハーモニー交響楽団の弦楽四重奏の3団体に出演をしていただきました。

この三宝山地福寺の場所ですけれども、大体車で高知市から1時間ちょっとの場所にある、高知県の四国山地の山間の集落にあるお寺の本堂でコンサートをさせていただきました。

コロナウイルスの感染症対策ということで、演奏中は常に窓を全開で行いました。その奥側にスペースがあるので、お堂で聴くことができなかった方には無料で気軽に聴いていただけるように対応もしました。その他、会場では地域の方による物品の販売等もあり、この音楽祭をすることによって、地域の活動についても影響があり、波及効果としてすごく良かったと思っています。先ほどの地福寺の会場まで行く入口も石段をずっと、上がった先に本堂があるので、ロケーションとしてもすごく雰囲気よかったと思います。

当日のタイムスケジュールが、14時から地元の方によるご詠歌の披露があり、14時20分ぐらいから、舞台転換を含め鈴木琴栄さんによるジャズライブがあり、「テネシーワルツ」や「枯葉」などのジャズのスタンダードミュージックや琴栄さんのオリジナル曲を披露していただきました。その後、休憩を挟んだ後に、15時半ぐらいから瀬戸フィルハーモニー交響楽団の弦楽四重奏の演奏になりました。「となりのトトロ」や「川の流れるように」という普通の曲やヴィヴァルディの「四季」から「春」などのそういうクラシックの曲と、全体的にふだん聴いたことがあるような曲を演奏してもらいました。コロナの関係で全部窓を開けておりましたが、窓を開けたことによって、裏の紅葉が会場のお客さんからも見えるようになって、逆にこれが背景としてはすごく良かったのではないかなと思っています。

やはり今年、現在も続いておりますが、新型コロナウイルスの感染症対策を徹底しなくてはいけないということで、県からの通知や、役場の保健担当のアドバイスを受けながら実施をしてまいりました。具体的な対策としましては、まず来場者の方に対しては受付での検温、マスク着用の徹底と3密対策として席の確保と換気、定員人数の減少ということです。人数を絞ったことによって、実際に会場に来られない方が出てきましたので、オンライン視聴の整備をしました。ユーチューブいしはらチャンネルでライブ配信を行いこの努力によって、他の地域の集会場等でもサテライト会場を開設し、実際に会場に来られなくても楽しめる仕組みを作りました。具体的にこれは、今現在いしはらの里チャンネルになっておりますので、ぜひご覧をいただければと思います。

では、そもそもなぜ実施するに至ったのかというと、集落活動センターいしはらの里は平成24年に開所し、そこから地域の維持活性化に向けた活動を実施してきました。ですので、生活店舗運営や、ガソリンスタンドの運営などをしてきたのですが、やはり本物の芸術文化を見る機会というのがやっぱりないと。そこが都市部との差があるというところで、気軽にプロの演奏を楽しめるいしはら音楽祭を開催しようというところに至りました。なので、キーワードとしましては「気軽」というところとプロによる演奏というところと、石原ならではのところにこだわって今回演奏しました。まず気軽ということ、芸術を身近に感じる環境づくりとしまして、クラシック音楽とかはコンサートホールで聴かないといけないという、敷居がたくさんありますので、入場料を安くすること、かつ、普段から地元の人が身近に行っている所を会場とすることで、より身近に感じてもらえる演奏会にしました。そういうところで独自性を大事にしまして、最終的に良かった点としては機会を創出できたというところと、次が多くの人を巻き込めたというところ。あとは、コロナ禍でも多くの人に楽しんでもらえる仕組みが共有できたという部分です。反省点としましては、やはり会場の人を減らしたことによって、その収入を確保することに苦労したというところと、あとやはり広報が思うようにできなかったというところで、今後に向けてなんですけれども、今回非常にお客様からの反響も良かった。来年度以降もこの活動をぜひとも続けていけたらなと思っています。

□質疑応答

Q:瀬戸フィルを呼ばれたというのは何か意図がありますでしょうか。

A:瀬戸フィルさんと呼んだ理由としまして、そもそも自分が大学のときにオーケストラのサークルに入っておりまして、そこがやはりそういうクラシック音楽というところがやっぱりきっかけだということで、そこがじゃあ呼びたいと考えたときに、四国で一つしかないプロオーケストラということで瀬戸フィルさんのほうにお声掛けをさせていただいて、今回来ていただきました。

⑥サンドイッチパーラー『海辺の冬フェス2020』



海辺の冬フェスということで、ヤ・シィパークで音楽フェスをやらせていただきました。サンドイッチパーラーという名前で音楽活動を高知在住でやっておりまして、県外へ行ったり海外にもたまに行ったりという形で活動する中、なかなか野外や、高知で音楽を楽しめるイベントというのが余りありませんでした。ラ・ラ・ラ音楽祭とかはありますけれども、あれは街中でやっていて、せっかく地元でヤ・シィパークという広い芝生の公園があって海が見えて、ステージがあるのにほとんど活用されていない。特に冬場は人も少ないというのがあって何かやりたいなとずっと前から思っていました。11月

に開催ができるようになり、高知在住のミュージシャン5組で開催ということになりました。この5組はずっと高知在住で高知を拠点に活動をしている人もいれば、東京出身でアメリカから帰国して土佐町に移住された鈴木琴栄さん、皆さん現在の拠点は高知で活動されています。

コロナの関係でなかなか開催日が決まらず、どうしても先が読めない状態ということで、確定できないまま先延ばしになり、決まったのが10月に入ってすぐの結構ぎりぎりでしたが、ヤ・シィパークが空いている日と、ミュージシャンが出演できる日とをすり合わせて23日に開催することができました。これに関しては、12月に入ってしまうと寒いと思われまじし、気温もそんなに寒くなく、風がちょっと強かったのですがちょうどこのときで良かったと思います。こういったイベント自体が春以降なかったので、どれぐらい人が来ていただけるかも見えない状況でしたが、香南市内の飲食店5店舗に協力いただいて出店をしていただきました。そちらはコーンで囲いをし、検温をした人だけ販売ブースに入れるという形にし、ステージの前は特に囲いはなしでかなり広く取りました。誰でも出入りができるという状態にしました。海側にかけて四角に囲い、入口1か所、出口1か所という形で検温をして、検温した人にはリストバンドを付けるということをしました。全体の動きとしてはなかなかカウントできてないですけども、リストバンドの数でいうとちょうど100程はけましたので、検温してくれた人だけで100人はいました。自由に出入りができた状態ですけども、ほとんどの人が飲食スペースで買物していただけたのではないかなと思います。全体でいうと150か200ぐらいの来場だったと思います。

あと、気を付けたところは、スピーカーは海に向けていますのでそんなに住宅に音が響くことはないとは思いますが、住民の方が、大音量に慣れてないかなとも思ったので、編成は大きい編成のロックバンド的なのはなしにして、多くても二人、三人組ぐらいまでにしました。開催して特に苦情とかも出なかったですし、開催してみたらお客さんも出店の方もミュージシャンもみんなやっぱりこういうイベントに飢えていたというのをひしひしと感じられましたし、ぜひ今後もやってほしいというふうに言っていただけました。今度はちょっと暖かい時期、梅雨より前、5月ぐらいに夕暮れ時にやれたらいいねという話も具体的に出てきていまして、また引き続き年に2回ぐらい開催していけたらなと思っています。

□質疑応答

Q:無料というのは本当に有り難い催しですが、やはり地元だからその謝金。交通費みたいな謝金になっていますので、これで演奏者の方がよく来てくださって有り難いなと思います。何組も出演したイベントだったら本当に厳しいと思いますので、カンパ箱もステージの上だけでなく、もし置くとしたらたくさん置いて、謝金も十分出せるような形でまたいけたらいいなと思いました。

A: 投げ銭カンパという形でやりました。海外では路上で演奏していたら「サンキュー」って言うってお金を通りがかりの人が払うってことが普通に行われています。アーティスト、ミュージシャンだけでなく絵を描く人、色々なアーティストの収入源として成り立っているということを目の当たりにしていたので、日本でも、特に高知で根付いていけば、決まった金額を払わないと見られないというのではなく、そういう文化を育てていけばいいなという思いで今回しました。スタッフが少なかったので1個しか置けなかったというのがありましたが、そういう部分もちょっとずつ繰り返していくことで強化していけたらなと思っています。

⑦村のカンパニー東風『ウマジアートブリッジvol.4 馬路村をフィールドにしたアーティストインレジデンス事業—発掘される地域の魅力—』



本事業では、アーティストインレジデンスを行ったのですが、レジデンスの期間は9月から11月の中頃で村にアーティストや研究者を招いていて、村の若者と協力して作品を制作するという内容でした。発表のイベントは、ウマジアートブリッジという場所を使って、アートやクラフト、飲食の出店販売も一緒にして発表の場としました。それぞれの来場者がアーティストインレジデンスは約120人、2日間の発表イベントが約100名。それと別で、橋の上にいる参加者、出展者やアーティストなどの数が23組になっておりました。コロナ禍で広報活動を控えていたにもかかわらず、多くの人がイベン

トに気が付いてくれたと感じました。

馬路村は自然が豊かでユズ産業が栄えていますが、いい意味でも悪い意味でも閉鎖的な側面を持っており、風通しの悪さを少し感じるところもあります。それは文化的活動の機会、少しだけ少ないのかなということも感じております。まずは外からアーティストを呼ぶことを一つの目的にし、二つ目は、村の資源・魅力を発掘する。そして三つ目、文化的体験の機会を増やすというところを目的としました。村外の文化的知見を持つ者との交流によって、これまでに取り上げられていなかった資源や文化的活動施設及びプログラムを発掘すること、村に住む若者や子どもたちの学校外での文化的教育の機会となる、多様性を養う体験になるということを目指しました。

次にレジデンスの内容と結果について報告します。一人目が今回のメインとなるアーティスト、高知出身でドイツ在住の彫刻家、杉本龍哉さんのレジデンスから始まりました。彼は、日々のフィールドワークの中で古材に出会い、村時間をテーマに作品を制作していきました。また村内にある保育所や、馬路中学校と魚梁瀬中学校の授業参観などオープンな人員交流を行いました。滞在期間の最後には、村内向けのプレ展示発表を行いました。杉本は、アートブリッジの当日には日本にすることができない状況にあったので、村の人と自分の作品について一人一人、村の人の顔を見ながらお話をする時間をちゃんと取りたいということで、アートブリッジの発表とは別に滞在期間の最後2日間に宿泊施設のために借りていた元旅館をリノベーションした古民家にて行いました。全てのお宅に機械を通じてラジオみたいにアナウンスを流せる馬路村村内放送を使用し、村内にむけて宣伝をし100人余りの来場者がありました。その様子は高知新聞にも取り上げていただきました。

助成を受けたことによってできたことは、アーティストを呼ぶことができたということ、運搬費や交通費、活動費を用意できアーティストの負担なく取り組むことができたことです。二つ目は滞在制作をする環境が用意できたということです。宿泊施設や制作場所など生活環境をいい形で、無理のない形で用意することができました。アートブリッジの日以外が主でしたが、日々の生活やフィールドワークを通して、地域住民との交流がたくさん生まれました。

本事業の目的は大きく三つあったわけですが、村外からアーティストを呼ぶということも達成でき、村の資源・魅力を発掘するということも、村に残る伝説や魚梁瀬杉やユズ、今も生きている古民家の魅力などを多く発掘し、作品として発表できたと思います。文化的体験の機会を増やすということも、教育への参加や展覧会の開催など興味を持って足を運んでくれた村民の方とかもおりましたし、村内移住作家と地域住民との親睦が深まって村民の文化活動への理解が深まったと思いました。

最後になりますが、アーティストインレジデンスの実施によって馬路村に新鮮な空気を取り込み豊かな時間を生み出

すことができました。

□質疑応答

Q: アーティストインレジデンスに呼ばれたドイツから来られたアーティストの方がその場にいらっしゃらなかったというの、どういうご事情があったのですか？発表の中で村が良くも悪くも閉鎖的と言われていましたが、そのことを今回のアートブリッジがどういうふうコミットできて、どんなふうに変えられたと思いますか？

A: 事情としては、まだドイツの美術大学で勉強している学生さんなので、学校が始まるということで、こういうことになりました。それとは別にアートブリッジの開催期間に理由があり、まず雨が余り降らない季節で、ユズ採りで忙しいのですが、みんなが働いている景色自体を見せるためにこの時期を選んだというのもありました。

体育会系のイベントが多く、文化的なイベント企画しても、ちょっとやる意味が分からないなどと言われる村の人たちがいましたが、小さなワークショップを開催したら、子ども連れで来てくれる若い親子がたくさん参加してくださるので、需要があるけど実施しづらい環境になっているのだなと閉鎖的に感じていました。しかしアートブリッジ4回目にもなると、今度行きたい、ユズのない時期に開催してくれれば、というような声も聞こえてくるようになり、何か意味が分からないという閉鎖的な感じは無くなったと思います。

⑧松葉川青年団『第二回いとひょう沈下橋アートプロジェクト』



昨年度も採択していただきました「いとひょう沈下橋アートプロジェクト」なんですけども、昨年度は第1回目ということもあって、アートな視点と方向でこの一斗俵という沈下橋、文化財に選ばれている四万十川で一番古い一斗俵沈下橋の辺りの魅力を探るということで、まず9月に現地リサーチをいろいろな人にしてもらいました。その結果を基に作品を制作して12月にガイドツアーを行い、作品を地域に配置しましてランドスケープアートのようなものを展示し、同時に大学生のリサーチなどを行ったのが昨年度でございました。

その間にたくさんの大学生、窪川高校生、県内のアーティスト、小学生も含めてリサーチ、作品づくり、ワークショップ、発表というふうにつながっていきました。大学生とのリサーチの中で、地域に口伝でのみ残る河童の物語というのが発見されました。これをイベントでやったところ、地域のほうからこの物語を活用してくれないかという声が我が青年団のほうに寄せられまして、それを新しい視点で活用してみようというところから第2回のプロジェクトを企画させていただきました。

同時に、新型コロナウイルスの流行ということがあって、我が地域も高齢化地域ですので、前回は県外の大学生なんか呼びましたが、今回は町内の市民劇団であったり、県内にいるアーティストを呼ぼうという形で始まりました。基本的には昨年度と同じようなスキームで進めました。河童物語というのをテーマに据えて現地をリサーチしてもらい作品を制作する。今回の半分は演劇だったので演劇の制作をし、小学生ワークショップなどを挟みながら演劇の上映と作品の発表を行うことにしました。コロナウイルスのこともあったので、展示については1か月の期間を取ってたくさんの人に見てもらえるように行いました。

リサーチは劇団しまんとという町内の劇団と、昨年度も参加してくれた造形のアーティストに入ってもらいリサーチを行いました。もちろん県からの基準なども提示されてはいたのですが、やはり実際地域の方に拒絶されてしまったら、お互いにすごくいいことにはならないので、町内の人が入ればいいのか、県内なら何人入れる状況なのかという事を、青年団のほうでしっかり確認、地域と折衝をしながらアテンドをさせていただきました。それがあつつつ、さらに劇団のほうはさらなる深掘りをしてもらい、アーティストからは近くて、結構大きいものを作りたいということがあったので、運搬などの観点から、高知市からうちの近く、我が地域の近くに通ってきて作品を作るようなことになりました。

同時に、やはり地域の方に広く知ってもらいたいということがあったので、拡散ができるワークショップを打ってもらったり、飾りを作るワークショップを打ったりしながら上演当日を迎えました。

上演については馬洗いの話という、これはもともとあった地域に伝わっていた話と、なりきりショーという小学生の扮装を発表したり、深掘りしていくうちにもう一つ作品が作れるかもしれないと劇団から提案があったので、それについてもさせていただきました。個人的なつながりを利用したものですけども、大道芸人がちょうど同じ時期に当地に来ていたので、手伝ってもらいパフォーマンスを行いました。

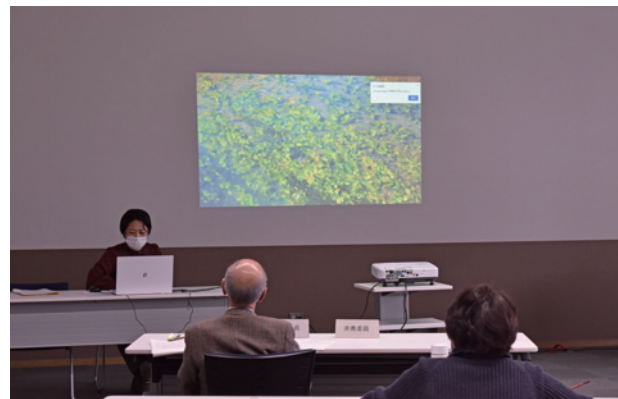
反響といたしまして、作品制作については地元の方にリサーチなどで話を聞きに行くことで、地元の人が話すことで誇りを取り戻したり、元気になるということがあったりなど、鉄工所、木工所の方がやっぱり若い人が入ってきてくれるとこれはうれしい、すごい活気づいている感じがあると言ってくださいました。

演劇についてはコロナの関係でこの四万十町でも公演というものが全くない状況の中、唯一の公演企画ということでケーブルテレビのほうに重宝してもらい、年末に5回ぐらい放送されることになりました。これは去年もあったのですが、やはりリサーチを進めていくうちに地元出身の団員も知らない古い情報がまた出てきて、今後につながるようなことになるのではないかなと思っております。文化的景観の活用事例として紹介させていただきたいということで、熊本県庁の文化財課の方から連絡を受けて今対応しているところです。

□意見

国選定文化財である「四万十川流域の文化的景観」中流域の農山村と流通・往来の構成要素である一斗俵の沈下橋を背景にしたアート活動である。昨年度よりも期間が長く内容も多面的な構成となっており、工夫の努力が見られた。保育園児から小学生・中学生・高校生・大学生・演劇関係者など地域社会を構成する住民が参加して、前祭では県外青年団との交流からカップ新聞作成配布、本祭では大道芸披露、子ども達のカップなりきりショー、朗読劇の河童物語などが四万十川中流域の集落で展開された。主催団体の松葉川青年団の意識が向上し地域社会を巻き込んだアート活動に発展している。今後の継続活動を期待したい。

⑨土佐和紙未来プロジェクト実行委員会『土佐和紙未来学校プロジェクト2020』



私たちは2016年に実行委員会を設立いたしまして、毎年夏にいの町を拠点として吾北中央公民館、伊野公民館、又は高知県立美術館を使用させていただいて、1週間ぐらい子どもたちと一緒に土佐和紙に関して学んだり、土佐和紙に関する人々だったり、現状だったり、自然だったりいろんなことを学んで、それを舞台にショー化して公演を行うということをしています。

土佐和紙未来学校プロジェクト2020は、実行委員会が初めてのいの町立の小学校と連携を取りながら放課後学習の一環としてさせていただきました。これまで実行委員会が培っ

てきたノウハウですとか、人材をいかして和紙のみならず地域の魅力を学び、それを演劇やダンスとして創出するというものを行いました。今回申請のときは、奥田川親水公園まつりという伊野南小学校の3年生、4年生が奥田川についての総合学習で、これから奥田川を守っていくためにみんなでお祭りを開きたいと言って2017年ぐらいからお祭りを毎年秋にやっているのですが、そこでの公演が成果発表になる予定でしたが、今年は新型コロナウイルスにより中止になりまして、これを少し転換いたしまして学校内でのミニ発表会を行い、またその映像を撮影しYouTubeで公開することにしました。短いものですので、皆さんに映像を見ていただきたいと思います。二つあります。

(映像再生中)

ちょっとご説明しながら見ていただきますと、ここのみんなが遊んでいる所が奥田川で、この草刈りも石山優太が滞在中、地域や学校の皆さんと朝7時ぐらいから午前中3時間ぐらい一生懸命草刈りをして交流を深めました。集まった子どもたちはいの町内のみならず、様々な学校から集まっておりまして、残念だったのが伊野南小学生の生徒が一人しか応募がなくて、これが一番残念でした。アピール、PRについてもう少し考える必要があるなというのを奥田川の実行委員会の皆さんと伊野南小の放課後学習の先生とお話をしたところでした。撮影は3時間ずつ稽古をして、その次の日、朝、午前中だけで全部撮影をみんなですて、午後、この教室でミニ発表会を行いました。この後ろに見えているのが

本番の演奏ですが、土佐和紙の近くに切ったものを奥田川に見立ててぐるっとお客様の周りに並べて、その周りを子どもたちが踊るというふうにしました。

企画から準備が良かった点と悪かった点についてなんですが、石山優太が高知県内に8月と10月に来高することができたので、ミュージシャンとの打合せ、映像作家との打合せができたことが特に良かったと思います。難しかったことは実施校からの参加者が少し集めることができずに、土佐和紙未来プロジェクトでいつも悩むのですが、子どもたちと一緒に何かを作っていくということ、もともとの何を作るのかというのが少しはっきりとしないPRをいつもしてしまうので、そこら辺を今後勉強しなければならないと思っています。実施体制に関してですが、実施当日は短い時間の中で映像作家とか、学校内の本番を無事終えることができて、これは本当にコロナやいろんな心配事がある中で伊野南小学校の先生方の応援もあり、実施ができたことは大変良かったと思います。また、この使用させていただいた教室では約37名のお客様に見ていただきまして、もうマックスの状態でしたが、本当にちょっと密になるのではないかと心配になるぐらい、たくさんの方々に見ていただいたことというのはとってもうれしかったですし、奥田川親水公園まつりの実行委員会の皆様、地域の皆様が継続してやってくれてよかったと私たちに声を掛けてくださったのがとても印象的でした。

土佐和紙未来プロジェクトは、紙すきに直接に関係するテーマ、伝統工芸ですとか、紙すきの職人たちの現状、それぞれ深いテーマをもって作品づくりするのですが、そうするとやはり少し限度を感じてしまうことがあります。でするので、たまにどのような普遍的なテーマがいいかなということを考えて、少し違った視点から見えるというようなプロジェクトを中に挟み込む形で私たちの可能性を広げるということをしています。今回の奥田川に生えている希少な植物もこれも人間の手で守らなければ無くなってしまう。和紙も同じように人間の手でどのようにして未来を描いていくかというのは人間の手にかかっているもので、そういうふうな人がめめて大事にしないといけないよというところが和紙、奥田川、そして植物たちとつながっていたのかなというふうに思い、こういう活動は今後とも続けていこうと思っています。

□意見

石山さんや浜田さんの呼びかけにより、最初は、ばらばらだった子どもたちが、徐々にコミュニケーションを取りあい、一つに纏まってゆく。その過程を目にすることができて、とても感動しました。子どもたちの自由な発想を大切にしながら、子どもたちの資質を伸ばしていく、そのための助言が上手く成されていたと思います。結果はもちろんですが、その過程も大切にさせていただきたいですね。これからも、地域の子どもたちとともに歩んでいただけたらと願っております。

⑩土佐清水からドライブインシアター文化をつくる会『車に乗って鑑賞する休校映画館』



私たちの事業で何をしましたかという、下ノ加江中学校という所、休校になって7年たった後の施設をどうにか人を集める場所にできないかと、そこにドライブインシアターができないかということで、協力隊になる前から私、村松真佐美の夢で、このたくさんある休校をどうにか活用して、また人が集まる場所にしたい。田舎だからこそできることをしたいということで活動しました。

一番何がネックだったかといったら、スクリーンを張ることでした。目標は600in、12m×9mの大スクリーンを張って映画を70台ぐらいの車をこの校庭に収容して見る予定でした

が、なかなかそのスクリーンを張ってくれる業者というものが見付かりませんでした。地元の建築事業者だったり、土方さんとか足場を組むところなど、いろんなところ声掛けたのですが、皆さんドライブインシアターを知らないですし、スクリーンを張るという行為もしたことないので、そんなことできないっていうのが、まず答えでした。なかなかやってもいいけどって声掛けてくださっても、1回スクリーンをかけるのに予算積み重ねてみたら大体15万とかで、今回私たちは文化を創る、ドライブインシアターの文化を創るということで、もちろんシネマ四国さんとかにお願いすればドライブインシアターはできるのですが、自分たちの中に技術を残すということをテーマにしていました。もっと気軽にドライブ

インシアターをこの土佐清水の端っからできるとかやりたいっていう声と、その実施できるっていうことをしたかったので、地元の業者と協力し合うということをテーマにしていたので、映写自体を自分たちでやるというつもりで最初からいました。なので、テストをするために最低でも本番と試写と試写数回をしたかったので、3回をやるとなると、そのスクリーンを張るだけでも45万で、予算を大分オーバーしてしまう。なので、どうしようかっていうことで、ここが一番全然進みませんでした。助成を受けてからもう半年以上これだけに悩んでしまったというのが正直なところなんです。なので、広報とか上映会にスライドをやるというところに時間を割けなかったというのが、今回この一番のネックとなりました。結局のところ協力隊の卒業生である方が、自分がこのやり方を調べて、みんなでお金を出さなくても知恵と力を合わせてワークショップ形式でどうにか10万円くらいで済ますようにするというので、引き受けてくれたのが夢の小判舎って書いてありますけど、これ地域おこし協力隊の元卒業生で一般社団法人のいわゆる地域プロデューサー、企画プロデューサーという活動をしている方が引き受けてくださって、3回全部でセットすることに成功しました。

そういうこともあって広報が大分遅れて約10日前によく、チラシも予算がほぼ足りなかったんで、予約台数も見込みがなく広報の予算を大幅に削りました。なので、紙の媒体のデザインは全て友人が格安で1万5,000円で引き受けてくれるというので、お願いしました。ポスターを全部で10枚、地域内にほとんど貼り、チラシは2,000枚を友人たちと公共施設等へ送りました。幡多地域に全てではなく本当に土佐清水市内の限られた場所になってしまったので、かなり広報が限定的になったのが、予約が入らなかった大きな要因だと思います。

企画準備が一番大変だったことはスクリーンを張るという作業です。みんなで知恵を絞り何回もワイヤーを張ってペンチで締める作業を、7mのはしごに乗って、立てて、ワイヤーを張って。600inの大きいスクリーンをしっかりと写そうとなると、70kgのプロジェクターが必要で男性二人じゃないと運べないという大変な代物でした。100Vじゃなく200Vなので家庭用の電気も引っ張れなく、200Vが使える発電機も100kgぐらいあるので、試写するのも毎回人を集めて、軽トラを用意してすごく大変でした。しかし、その分必ず人がいなきゃいけないので、みんな力を合わせて集まってくれ、まず一発目写せるかどうかのテストは成功しました。結局この8mくらいの防球フェンスにこの10m×10m、20kgの重さのスクリーンを張りました。ラジオの周波数飛ばして音楽を飛ばすチェックも、地元の電気屋さんが協力してくれ一緒に行いました。前日、ようやくテストの結果、全部がうまくいって、動画が流れたとき、みんなですごく感動して、本番を迎えられると思っていました。しかし、次の日風でスクリーンが落ちてしまい、当日上映できないのではないかなと思うぐらい時間が掛かり、最悪サイズが小さくなくても校舎で上映会を行うことも考えていました。何とか少ない人数で、スクリーンを張ってどたばたの中、開場時間に間に合いました。

本当にできたのが奇跡だったっていうことを今日はお見せできたのかと思います。助成金があっても採算性が合わないの、ドライブインシアターを他ではどこもやっていません。今回自分たちで最低限でやるという。収益として人が集まらない感じでしたので、30～35万ぐらいでやれたんですけども、それでもできるっていうことが今回分かったので、今度は値段設定をもう一度検討し、助成金無しでも自分たちでできるような仕組みをこれから考えていきたいというチャンスをいただけたと思っています。本当に皆さんありがとうございました。

□意見

実際シネマ四国さんがやっているものも手作りに近いところがありまして、かなりぎりぎりです。自立するバルーンスクリーンを導入しましたので、フェンスがなくてもできるようになっています。ただ、それも設営するのにかなり苦労を、まだノウハウを積んでいるような状況ですので、これからだと思います。ちょうどコロナの時期でしたのでドライブインシアターって今の時宜になかったものだと思いますし、もう一つ障がい者の方であったりお子様連れだったり、なかなか映画館に行きづらいところがありますので、そういう方に向けても非常にいいかなと。車の中ですの、声を十分出しても構わないし、そんなところで可能性のあるものだと思います。ぜひ続けていただければいいと思います。

⑪特定非営利活動法人地域文化計画『Artist in residence Kochi 2020』

Artist in residence Kochiは各種の芸術活動を行うアーティストを高知に招聘し滞在していただき、高知のアーティスト、芸術、風土、産業、ひととの触れ合いを軸に作品制作を行う事業です。単発の企画として終わらず、長期的な視点で高知の文化芸術における創造環境を高めていきたいと考えています。Artist in residence Kochi 2020で



ました。

前田実津さんのプロフィールになります。1984年、高知市生まれで、2007年にマレーシアの在ペナン日本国領事館で勤務されてフォトジャーナリストとして活躍されました。現在はフリーのカメラマンとして高知に滞在し、様々な取組に参加しています。

今回、展示させてもらったすさきまちかどギャラリーとは、江戸末期からずっと商家の酒蔵、米穀業、製紙業、金融など多岐にわたる事業を行っていた三浦家の邸宅を活用した文化交流施設です。大正5年頃に造られたといわれており、建物は高知を代表する商家建築と評されています。現在も様々な企画展が催され、地域の作家、伝統文化を取り上げた展示会を行う一方、現代美術家を招聘し滞在制作と交流を通じて新たな視点から須崎の魅力を探すためのプロジェクト「現代地方譚」を開催し、県内外から注目されています。

写真を活用したワークショップについて、内容としては簡易カメラ「写ルンです」を活用した写真ワークショップを開催しました。インスタントカメラを保育園児に渡して、皆さんに前田実津さんから写真の撮り方や、どういうふうに景観を撮るかということを伝えていただいて、その後、約30分から45分ぐらい時間を渡して園児の方に自由に撮ってきてもらいました。それを後日現像に出してアルバムに入れて、最後、園児の方にプレゼントするという内容でした。近年、親御さんも含めてデジタルカメラやスマホのほう主流になっているので、撮る枚数が制限されている、撮ったものがすぐに見られないということに慣れてない方ばかりなので、そこを説明して27枚でどういう写真を撮りたいかなど持ち帰ってもらい、さらにお家でお母さんを写真に撮るかお父さんを写真に撮るとかということも自由に子どもたちに決めてもらいました。インスタントカメラを撮ったことのない園児ばかりなので、ダイヤルをどうやったら回せるのかとか、どこを見たら写真が撮れるのかとか、そういうところも伝えつつ頑張りました。今回は皆さんじっくり考えて撮ってきた写真を持ってきて、何枚かは残して、いいものを持って帰りたいという子が多かった印象です。皆さん、和気あいあいとやってもらいました。

写真展示期間としては12月1日から15日、場所はすさきまちかどギャラリー/旧三浦邸にて行い、来場者数は最終的に351名でした。今回作ったフライヤー、ポストカード形式のフライヤーになります。すさきまちかどギャラリーの中にある和室とキッチンスペースをお借りして、そこで写真の展示を行いました。12月1日から前田実津さんが滞在しながらさらに写真をいろいろ増やしていくという形で、15日まで展示作品が増えていくというスタイルで展示のほうをやらせてもらいました。

前田実津さんも高知県には住んでおられますが、須崎市に長く滞在して過ごすことはなかったのいろんな発見があったということでした。本当にたくさんの方が展示を見に来てくれ、まちかどギャラリーの性質だと思いますが、散歩がてらに寄っていった、今日は何が撮れているかを確認して楽しんでもらえるような感じになっていました。それが実津さんも見ていて、町にこういう場所があるのはすごくいいなとも思われたそうです。今回、展示作品の写真などを高知新聞に取材に来てもらい紹介していただきました。

□質疑応答

Q: 予算書のときに入場料を100円取るようになっていたと思うのですが、これが無くなっているのはやはり県外作家を招聘しなくなったからでしょうか？

A: 最初、県外の方を呼ぶこともあったので入場料100円にしていたのですが、すさきまちかどギャラリーさんと事業が採択された後に打合せをしたときに、有料が無料かで使用料が変わるんです。それで、相殺されてしまうところがあったので、だったら無料で皆さんに見てもらえた方が良くと。ちょうど高崎元尚さんと川鍋館長の二人展も同時期にやっていた、そちらも無料だったので、合わせて二つ見に来てもらえた方がいいだろうという判断で、今回入場料を100円から無料に、途中で変更させていただきました。

⑫松村柴乃&グループ琴『土佐を想う箏〜紡ぐ〜Concert』



まず演奏会の報告ですが、2回公演をさせていただきました。1回目の11月29日は土佐山田の古民家を使用して演奏いたしました。こちらは小さな会場で、2回目は自由民権館、もう少し大きなホールでございます。29日のほうは、非常に小さな所で人数も限られていたので、例えば三味線を演奏するときは組み立てて演奏できる状態になっておりますけども、小さく三つにコンパクトに畳んだ状態から組み立てて音を出すところを、琴の歴史、三味線の歴史、素材は何を使っているかなど細かく説明させていただきました。コロナという中、大変な時期でしたので、マイクを使ってフェイス

シールドをして皆さんにお声を掛けなくても聞こえるようにちょっと工夫をさせていただきました。

次は琴ですけれど、実際にちょっと触っていただいたりとかしたかったので、お近くにいる方にお手伝いをしていただいたりもしました。こちらも琴も通常は琴柱というこの白いブリッジを立てているんですけども、これもない状態から出して琴柱を立てるところも、観客の中に小さなお子さんがいらしゃったので、協力していただいて楽譜を入れてもらうということもしました。普段はなかなかお見せしないのですが、自分たちが使っている小物や付属品を、通常演奏家の人はその裏側を見せたりしませんけれども自分が使っている小物、こういうふうに使っていますよと細かく見ていただきました。すごく私自身も会場を紹介していただいたんですけれども、古民家で雰囲気もあって、お客様も近くにいらしゃるので自分自身も温かくなるような気持ち、それが多分お客様にも伝わったのではないかなと思います。

反省点としては、演奏する時間より、ちょっと細かく説明をし過ぎたので話がすごく長くなってしまい、寒い時期でしたので、例えばホッカイロを配るなど何か準備をしておく工夫ができれば、お客様にとって良かったのではないかなと思います。

そして12月6日に自由民権館で本公演。先ほどの古民家のほうは私と柴乃のほうで琴、3弦、17弦、中国の二胡の楽器の説明をし、演奏をしました。12月6日は本公演になりますので、合奏、中国の二胡のゲストの方と大合奏。それとワークショップを行いまして、この公演と一緒にワークショップを受けていただいた2名の方と1曲演奏することになりました。そのワークショップに出ていただいた方は楽器を持っているわけではありませんので、本番までにちょっとイメージトレーニングというか、それが必要だなと思ひまして、私も考え抜いて、たこ糸と割り箸で琴の弦の幅を原寸大に測って、13本弦があるんですけども、これを作っていただいて、「4、3、4、3」と書いてありますけど4本目、3本目って縦に読むんですけど、これをワークショップの方にレクチャーして弾いていただくと。一人の方はこれだけではなくて段ボールを使ってもうちょっとしっかりした琴に近いようなものを作っていただいたりとかしたので、何か私もいろんな「作っていく、創造する」ということがすごく芸術と音楽に影響してきたのではないかなと思います。リハーサルの様子ですが、演奏を常々練習している方とワークショップを受けて初めて演奏する人との合奏ですが、「本当に初めて弾くのですか」「楽器を持ってないのですか」といったような感じで、本番は本当にいい演奏ができて私もすごくうれしく思いました。少し小さな会場でしたので、曲の合間に楽器の説明や曲の説明などしながら演奏を進めてまいりました。私も初めて使う会場でしたので、使い勝手がよく分からなくてなかなかうまく転換ができなかったり、そういったところに不備があったと思います、次回からは下見もしっかりして準備していかないといけないと思いました。お客様からは近くて細かいお話が聞けて良かったというお声も多かったですし、こういう時期でしたので、音楽に触れるとやっぱり「ああ、音楽っていいな」って心が揺さぶられ涙するというお声もいただいたので、私も本当に音楽をやっていて良かったと思います。これからも高知の曲を題材にした曲もどんどん作って行って、高知県の市外でコンサートを聴けない、そういう状況の所にも

どんどん出向いてこういう活動を広げていきたいと思いました。

□質疑応答

Q: 日本の伝統文化、特に古典の衰退の時期にあると言われていますが、舞台を見させていただいて、これだけ企画内容が良いものをいろんな地域へ出向いて地域の人たちに知っていただいて、普及させ地域の活性化にもつなげていただきたいと思います。どうやって人を呼ぶのか、見ていただくのか、広報の仕方をどういうふうに考えていくのか。決意の程を聞かせていただけますでしょうか。

A: やはり邦楽、琴、尺八とかもそうですけれども、昔は家にあつたりしましたけども、本当に子供たちも大人も見ただけでもない触ったこともないっていう家庭、皆さんがほとんどですね。すごく残念なことでこれを本当にいろんな人に触ってもらって触れてもらうことで振動が体に伝わります。そういったものを本当に、小学校、中学校、高校、また幼稚園、小さいお子さんのところにどんどん行って広めていきたいと思います。全国的に私も行ったりするんですけど、高知県の中で活動できないか、これから考えていきたいと思います。土佐の音楽もどんどん作っていきたいと思います。

⑬Empty space×幡多高校生ゼミナール『高知県被曝者の肖像、遠洋漁業の記憶2020』

□報告者当日欠席の為、後日質疑事項について回答

Q: 幡多高校生ゼミナールとの連携した取り組みは何か？

A: 各地域にいる幡多高校生ゼミナールOBの方々や、現役の高校生にお世話になりながら撮影しました。具体的には、幡多高校生ゼミナールの現役・OBのメンバーと一緒に撮影にいたるまでの被曝者とのコンタクトをとり、インタビュー時の質問事項などを作りあげ、宿毛、土佐清水への墓参りや、聞き取りなどに同行させて頂くことにより、高校生ならではの質問や視点を撮影に活かすことができました。また現在もビキニ被曝船員に聞き取り、調査被曝者の名簿を更新するための調査をおこなっている室戸の会のメンバーの方々とも同行させていただき、質問の仕方なども教えてもらいました。

Q: 地域との関わり

A: コロナ禍により学生や高齢者と長くコンタクトできる時間もとれず、撮影を通してしか地域との関わりが生み出せなかったため、来年は、ワークショップの開催などで高校生や中学生等を含めてより県内での認知度を高める取り組みや、人それぞれの捉え方の違いを踏まえ、馴染みのない年代の方々なども巻き込みながら制作していきたいと考えています。

Q: 今後の取り組み(成果の活かし方)

A: 今回の撮影で、この事件を戦争体験もふくめて聴ける最後の世代ではないかとの危機感を強く抱いたので、より多くの人が参加して語り合える場作りをしていきたいと思っています。来年は、今年回りきれなかった室戸を中心に撮影をすすめ、高校生や中学生とともに、ビキニの詩を作っている須崎市出身の大崎二郎作の詩の朗読会を含めてWSなどを開催し、映画の中に反映できればと思います。また、より多面的な内容にするため、水爆実験が行われた地マーシャル諸島の撮影も行い、高知とマーシャル諸島の人々をつなげる事ができればとも思っています。

第49回高知県文芸賞

募集要項

募集部門

短編小説（1人1編）／詩（1人1編）／短歌（1人3首以内）
俳句（1人5句以内）／川柳（1人5句以内）
＊（ ）内は応募できる作品数

作品送付先

〒781-8123 高知市高須 353-2
（公財）高知県文化財団内
「高知県芸術祭執行委員会事務局」あて

締切日

令和2年9月30日（水）当日必着

応募条件

未発表作品であること。応募者は高知県在住者に限ります。
＊私的な会や学習会で発表した作品、メンバー内での回覧、資料とするための目的で活字化した作品は「未発表」とみなします。
＊その他、上記の条件等に則り、事務局が判断する場合がありますのでご了承ください。

作品への記載事項

①部門名 ②氏名（フリガナ）※ペンネームで使用的場合は併記 ③住所 ④電話番号 ⑤年齢を必ず明記してください。
記載場所等は部門ごとに異なります。（下記表参照）
鉛筆またはシャープペンシルの場合は、HB以上で濃くはっきり書いてください。

部門	記載方法・注意事項	
短編小説	■作品本文は 400 字詰原稿用紙 10 枚。 ■パソコンの場合、20 字 × 20 行で設定してください。 ■必ず、作品本文にページ番号をふってください。ホッチキス留めは不要。 ・1 枚目：タイトルを明記 ・2 枚目～11 枚目：作品本文 ・12 枚目：部門名・氏名・住所・電話番号・年齢を明記。	＊応募作品は返却しません。
詩	■作品本編は 400 字詰原稿用紙 2 枚、37 行以内。 ・1 枚目：1 行目上方に部門、作品名、2 行目下方に氏名を明記。 （3 行目はあけて）4 行目から作品本文を書き始めてください。 ・3 枚目：住所・電話番号・年齢を明記。	＊個人情報、運営上の管理及び本人への連絡の用途に限り、利用させていただきます。ただし、入選作品については、在住市町村名、氏名、年齢を公表します。
短歌・俳句・川柳	■通常はがきを使用してください。 ＊学校から、まとめて応募の場合は、はがきサイズの用紙へ記入しても可。 その際、ご担当教諭名を封筒に記入してください。 ■全部門とも自由題。作品は楷書・タテ書きで書いてください。 ・はがき表面に部門名を必ず記入してください。 ・氏名・住所・電話番号・年齢は作品末尾に記入してください。	

発表について

①入選者名は 11 月上旬、文芸賞受賞作品の全文は 11 月中旬～下旬頃、高知県芸術祭公式ホームページ上でそれぞれ発表予定です。

②入選作品は「高知県芸術祭文芸賞入選作品集」（12 月中旬発行予定）に掲載します。

③文芸賞および文芸奨励賞受賞者の方は、表彰式において表彰状と副賞が授与されます。佳作受賞者には表彰状が授与されます（郵送予定）。

≪表彰式：12 月 13 日（日）高知県立高知城歴史博物館にて開催（予定）≫

くわしい情報については

高知県芸術祭で検索！



高知県芸術祭
公式ホームページ

応募状況と入選者数

	応募総数	応募人数	文芸賞	文芸奨励賞	佳 作
短編小説	35編	35人	1	2	0
詩	52編	52人	1	5	5
短 歌	334首	122人	1	5	5
俳 句	686句	199人	1	5	10
川 柳	538句	119人	1	5	9
合 計	1645作品	527人	5	22	29

表彰式 開催日：令和2年12月13日（日）
会 場：高知県立高知城歴史博物館ホール
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止

副 賞 文 芸 賞 表彰状、VJAギフトカード、四万十ひのきの箱入り一筆箋
文芸奨励賞 表彰状、VJAギフトカード、四万十ひのきの箱入り一筆箋
佳 作 表彰状、VJAギフトカード



文芸賞審査員

短編小説	杉本 雅史	詩	小松 弘愛	短 歌	梶田 順子
	米沢 朝子		長尾 軫		中野 百世
	若江 克己		林 嗣夫		
俳 句	植田 紀子	川 柳	小笠原 望	※五十音順、敬称略	
	橋田 憲明		窪田 和広		
	味元 昭次		清水かおり		

第49回高知県文芸賞 入選作品一覧

部門	賞	市町村	氏 名	題名(ただし、短歌、俳句、川柳は作品)
短編小説	文 芸 賞	香南市	内山真知子	最後の帰省
	文芸奨励賞	香美市	山崎 静香	消えた人
	文芸奨励賞	長岡郡本山町	川村 智保	二度とないもう一度
詩	文 芸 賞	土佐郡土佐町	矢野ゆかり	1分と40秒
	文芸奨励賞	四万十市	山崎 詩織	湯灌の儀
	文芸奨励賞	高知市	阿部 美晴	3DKの戦地或いは祈りのない教会
	文芸奨励賞	高知市	下元 真人	chagrin(シャグラン(悲しみ))に君をそっと包んで
	文芸奨励賞	高知市	栗山 文子	手の中
	文芸奨励賞	高知市	都築 悦子	眼差し
	佳 作	四万十市	小笠原 毅	T君へ
	佳 作	高岡郡佐川町	和田 由香	ひととき
	佳 作	高知市	千里 日月	でんとした存在
	佳 作	四万十市	尾崎 弘二	笑
	佳 作	高知市	南木 恵美	うつら うつら
	文 芸 賞	吾川郡いの町	西原 時子	手相見の顔をして孫の手をひろげ小さき線に未来を語る
短歌	文芸奨励賞	高知市	岡松 模子	ウイルスは鳥の如くに渡り来し日本列島に花の咲く頃
	文芸奨励賞	高岡郡四万十町	熊谷 敏郎	コロナとて諦めさせし珊瑚婚の旅のチラシへ栗を分け合ふ
	文芸奨励賞	高知市	多田真理子	被爆者手帖携え生きて来しことを知りしは叔父の晩年の夏
	文芸奨励賞	高知市	田上 悦子	ウイルスも「排除」だけでは貧しき世「共に」が新たな豊かさを生む
	文芸奨励賞	土佐市立高岡第一小学校六年	中平 琉央	かみなりがピカッと光り飛びあがるねこはすぐさますがたをかくす
	佳 作	高知市	北添起代子	孫のいて息子(こ)のいて娘(こ)のいて姪のいてなぜに淋しいあなたがない
	佳 作	高知市	梶原 和歌	弁当は時代を映す鏡なり今飽食の裏に飢餓あり
	佳 作	香美市	大石 綏子	三角は普通の印新聞の「今日の運勢」普通でいいよ
	佳 作	土佐市立高岡第一小学校六年	山本 咲愛	せんぶう機首を回してさがしものいつまでたつも見つからないな
	佳 作	土佐市立高岡第一小学校六年	戸梶 沙南	秋の風わたしをそっと押してくる中学校への別れ道だよ
	文 芸 賞	四万十市	安西 佐和	斎田は原野に戻り葛の花
	文芸奨励賞	高知市	古田 彩香	三戒を座右の銘に羽抜鶏
俳句	文芸奨励賞	高岡郡佐川町	浜田 博子	胡瓜にも遊びごころのある曲り
	文芸奨励賞	南国市	井上 志津	柚子の香や一村包む風となる
	文芸奨励賞	高知市	山路 一夢	人手にわたる家の銀杏匂ひけり
	文芸奨励賞	高知大学教育学部附属中学校三年	橋田 千春	カルストの積んだ干し草天の川
	佳 作	室戸市	山本世志恵	西瓜食ぶ理系文系隔てなく
	佳 作	土佐清水市	山下 昭文	大仏の手相シンプル若葉風
	佳 作	南国市	山崎 光子	青鬼灯少年院の鉄格子
	佳 作	土佐清水市	山崎紀美子	枕辺やほうたる放ちくれし父
	佳 作	高知市	岡林知世子	冬耕の日がな一人の音の中
	佳 作	香南市	乾 真紀子	どの道も家に行き着く秋の暮
	佳 作	土佐市	矢野 重雄	秋草へがが押しくれる車椅子
	佳 作	高知市	西込 とき	椋大樹芽立ち南学生れし地
	佳 作	高知大学教育学部附属中学校三年	長 山 凜	夕焼が悔し涙を止まらせる
	佳 作	高知大学教育学部附属中学校三年	岡 林 愛	友の声さえぎったのは蟬の声
	文 芸 賞	高知市	立花 末美	蝶だったあの日背中を押したのは
	文芸奨励賞	土佐清水市	辻内 次根	欠食へアンパンマンの飛行雲
	文芸奨励賞	四万十市	遠近 哲代	すぐに逝く約束だったのにごめん
	文芸奨励賞	土佐市立高岡第一小学校五年	前田 直希	部分日食だれか太陽食っちゃった
川柳	文芸奨励賞	高知市	近藤 真奈	本当に良いかと聞いてくる角度
	文芸奨励賞	高知市	山 本 登	遠いけど道のきれいな方を行く
	佳 作	四万十市	近 藤 糾	触れる手の心が僕に詩をくれる
	佳 作	南国市	山崎 光子	雁来紅いつも火種のあるくらし
	佳 作	須崎市	徳永 逸夫	平凡にナンジャモンジャが咲いている
	佳 作	高知市	曾我部仁志	紺碧の雲なき空に似非(えせ)と言う
	佳 作	高知市	桑名知華子	温暖化大河は竜と化してゆく
	佳 作	高知市	高橋 治光	戦争を知らずに僕は老いてゆく
	佳 作	土佐市立高岡第一小学校五年	中村 蒼真	秋の風秋秋秋と言っている
	佳 作	香美市	楠瀬 美香	三密を遊び疲れた羊たち
	佳 作	宿毛市	江口 桂子	カサブタがポコッと取れた風が吹く

チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン&濱口典子

DVD配布、Web配信

平成30年12月11日(火)高知県立美術館ホールで、第68回高知県芸術祭メインイベント「チェコ・フィルのヴィルトオーゾ競演」を開催しました。あれから約2年を経て、令和2年12月15日(火)再び高知で、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団に所属する演奏家と高知県出身のピアニスト濱口典子氏の共演コンサートを開催する予定でした。しかしながら、本年度の始まる頃には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が全世界に拡がりつつありました。今年は、芸術祭70回目の節目でもあったので、70周年記念イベントとして盛大に開催する予定でしたが、4月頃には、もうすでに12月のコンサート開催が可能なのかまったく読めない状況となっていました。季節が夏へと変わる頃、主催のアルペジオ音楽企画様よりコンサート開催について連絡があり、協議の結果、チェコから演奏家が来日できたとしても無事に帰国できる保証がないことや、先の感染状況が読めないといった理由により、コンサートを中止することに決定いたしました。

コンサートの開催は中止となってしまいましたが、あらゆるイベントが安心して行えない状況の中、違った形で県民の皆様にも音楽をお届けすることはできないかと検討を重ねました。自宅に居ながらお家のテレビやパソコンで演奏会を楽しむことができれば良いと思い、ダメ元で主催のアルペジオ音楽企画様へ演奏映像を収録したDVDの制作とWeb配信について打診しました。すると、早急にチェコの演奏家の皆様ともご相談くださり、初めての試みではあるけれども全力を尽くしますといったお言葉と共に、ご快諾いただきました。共演予定であった、本県出身のピアニスト濱口典子氏からも制作をご快諾いただきました。

事務局としても、DVDの制作やWeb配信は初めての試みだったので、どのような内容にするか、配信はどのように行かなど、専門業者に相談しながら検討しました。本来であれば、高知県立美術館ホールにお越しいただき、コンサートをお楽しみいただくはずでしたので、会場にいる雰囲気だけでも伝えることができれば、と思い、オープニング映像は、会場へ向かう道をイメージして制作し、視聴後は、一本の映画を観たような感覚を味わっていただきたいと思い、エンディングまで趣向を凝らしました。また、DVDパッケージやディスク盤面は、チェコ共和国の美しい風景としました。

収録内容については、「チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン」は、チェコを代表する作曲家ドヴォルザークの楽曲をはじめ、チャイコフスキーやシューベルトといった馴染みのある作曲家の楽曲、更には、日本の昔懐かしい楽曲も織り込んだクラシック初心者の方でも楽しめるプログラムとなっております。チェコ・フィルハーモニー管弦楽団の本拠地である「ルドルフィヌム(スーク・ホール)」から映像を届けてくださいました。濱口典子氏については、得意とされるスペイン音楽を未発表のライブ音源にご本人が撮影されたスペインの美しい風景写真や動画を組み合わせた映像を制作してくださいました。スペインの作曲家の楽曲は初めて拝聴したのですが、哀愁のある素敵な音楽だなと思いました。チェコは、新型コロナウイルス感染症の感染状況が日本よりも深刻で、この映像を制作いただいた期間は、ちょうど非常事態宣言が出されている最中でした。そのような大変な中、高知県芸術祭の為に、撮影をしていただき、素敵な映像を届けてくださったこと、本当に感謝しております。濱口氏においても、東京都にお住まいで、外出もままならない状況の中、時間を割いて映像制作にご尽力いただき、ありがとうございました。

制作いただいた映像は、12月末頃より希望者にDVDとして無料配布又はWeb配信を行いました。視聴アンケートでは、多くの方から、「素晴らしかった。心に響いた。」などといった嬉しいお言葉をいただきました。当初は予定をしていなかった映像制作ですが、この試みが、コロナ禍で疲弊した皆様の心の癒しとなれば良いと思います。

県民の皆様にも安心してイベントを心から楽しんでいただける日が来ることを願って今後も、高知県芸術祭を盛り上げるべく、尽力してまいります。また必ず、高知で再演を！

(文責:政岡知実)



◎共催行事

※記載内容は原則として事業実施報告書の記載に則しています。
※開催日（部門別）の順に掲載しています。 ※参加者数は、芸術祭会期中内での集計となります。

部門名	行事名	主催団体	日 程
舞踊・ダンス	グラビティ&アザーミス オンライン公開ワークショップ	高知県立美術館	令和2年10月11日(日)
	AΦE(エーイー)「WHIST(ウィスト)」	高知県立美術館	令和2年11月7日(土)～11月15日(日)
美術	企画展 浦上コレクション 北斎漫画	高知県立美術館、 KSSさんさんテレビ	令和2年8月10日(月・祝)～ 9月27日(日)
	シャガール・コレクション展 手彩色の世界 聖書③	高知県立美術館	令和2年8月25日(火)～10月25日(日)
	石元泰博・コレクション展「選挙」	高知県立美術館	令和2年9月8日(火)～10月25日(日)
	第24回高知県障害者美術展(スピリットアート)	高知県、高知県障害者美術展 実行委員会	令和2年10月9日(金)～10月18日(日)
	アーティスト・フォーカス #01 竹崎和征 雨が降って晴れた日	高知県立美術館	令和2年10月25日(日)～12月20日(日)
	石元泰博・コレクション展「湖国の十一面観音」	高知県立美術館	令和2年11月3日(火・祝)～ 令和3年1月3日(日)
	テレビ高知開局50周年記念事業 隈 研吾展	隈 研吾展 高知実行委員会	令和2年11月3日(火・祝)～ 令和3年1月3日(日)
映画	高知県立美術館秋の定期上映会 「サスペンス映画とコメディ映画 巨匠の饗宴 フリッツ・ラングvsエルンスト・ルビッチ」	高知県立美術館	令和2年11月18日(水)～11月22日(日)
総合文化	古代ものづくり体験教室(銅鏡づくり、 勾玉づくり、ガラス勾玉づくり)	高知県立埋蔵文化財センター	銅鏡づくり:令和2年9月13日(日) 勾玉づくり:令和2年10月18日(日) ガラス勾玉づくり:令和2年12月13日(日)
	特別展「薩摩と土佐一雄藩がたどった 近代化の道―」展	高知県立坂本龍馬記念館	【前期】令和2年10月6日(火)～ 11月9日(月) 【後期】令和2年11月14日(土)～ 12月13日(日)
	ジャックオランタンのかぶりものを作ろう	(公財) 高知県文化財団	令和2年10月11日(日)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知県立美術館ホール	56	世界的な新型コロナウイルスの蔓延により来日中止となった現代サーカスカンパニーによる公演に代わり、ワークショップを実施した。双方ともに初となるオンライン形式のWSだったが、講師陣も参加者も満足いく結果となり手ごたえを得られた。加えて現代サーカスのショートレクチャーも行い新しい表現の理解を深めた。
高知県立美術館・ 県民ギャラリー	495	会場内を回遊しながらVR映像を楽しむという新しいジャンルの芸術作品を日本に紹介し、高知県内のお客様にヨーロッパの先端芸術に初めて触れていただくことができた。
高知県立美術館・ 第2、3展示室	6,822	葛飾北斎のベストセラー絵手本集「北斎漫画」を、世界随一の「北斎漫画」コレクションである浦上コレクションより紹介。親しみやすい作品解説とともに幅広い来場者を楽しんでもらえる展覧会を開催できた。
高知県立美術館・ 2階第1展示室	3,213	全105点から成るシャガールの手彩色版画《聖書》を3回に分けて展示する3期目。シャガール版画の評価を高めた作品をまとめて鑑賞する貴重な機会を設けられた。
高知県立美術館・ 2階石元泰博展示室	1,673	高知ゆかりの写真家・石元泰博が、1960年にケネディ対ニクソンの大統領選挙で沸くシカゴの街と人々を写した作品を、ほぼ時系列に沿って紹介した。アメリカ大統領選と時期を合わせたことで観覧者の関心を集めることができた。
高知県立美術館・ 1階第4展示室	3,667	844点の応募作品の中から228点を展示しました。独創的で感性溢れる作品の数々は、訪れた多くの人に感動を与え、障害のある方への理解につながっていることが感じられます。
高知県立美術館・ 1階第4展示室	1,721	高知県須崎市出身の画家・竹崎和征氏の個展を行った。本展は竹崎氏の作品をまとめて紹介する貴重な機会となり、県内外の来館者から好評を得た。竹崎氏の作品集ともいえるドキュメント・カタログも製作することができた。
高知県立美術館・ 2階石元泰博展示室	1,317	高知ゆかりの写真家・石元泰博が、1980年代に滋賀県の11の寺々に伝わる十一面観音像を写した作品を紹介した。貴重なオリジナルのカラープリントを展示することによってその魅力を伝えることが出来た。
高知県立美術館	5,891	世界的な建築家で、梶原町などに多くの建築物を設計した、隈研吾氏の建築物を、模型や大画面の高解像度の迫力ある映像で紹介する企画展であった。県内外からも、来場いただき、隈氏の建築の概念などを知っていただける展覧会になったと思う。
高知県立美術館ホール	526	サックス、ギター、ヴァイオリン、ピアノ等によるライヴ演奏付き無声映画公演と、有声映画上映を5日間に渡り開催した。音楽と映画が融合した芸術を堪能いただけたとともに、スクリーンでは観る機会の少ない名作を紹介することができた。
高知県立埋蔵文化財センター	108	体験を通して昔の人々の知恵と技術に感心するとともに難しさも感じたようです。また、自分の手で作り上げた作品に満足しながらも、また、挑戦したいという感想を得ることができました。
高知県立坂本龍馬記念館・ 新館企画展示室	22,173	重要文化財2点、龍馬書簡真物1点を含む計33点の資料を借用・展示(7割ほどが県外からの借用資料)。薩摩藩と土佐藩の、幕末を中心とする歴史的な関わりについて紹介した。
イオンモール高知1階・ セントラルコート	43	色画用紙を使ってジャックオランタンのかぶりものを作りました。同じ材料でも、折り方やパーツの位置の違い、アイデア次第で個性豊かな作品も出来上がり、ものづくりに楽しく触れていただく機会となりました。

部門名	行事名	主催団体	日 程
総合文化	30周年記念特別展 発掘の軌跡―遺跡で紡いだ高知の歴史―	高知県立埋蔵文化財センター	令和2年10月11日(日)～令和3年4月2日(金) 【関連行事】 令和2年10月11日(日):ギャラリートーク 令和2年11月3日(火・祝):記念講演会
	連続講演会「幕末再考-変革への計と実践」 第3回 “志士最後の生き証人”田中光顕の功績」	高知県立坂本龍馬記念館	令和2年10月24日(土)
	第43回高知県高等学校総合文化祭	高知県教育委員会、 高知県高等学校文化連盟	令和2年11月6日(金)～11月22日(日)
	龍馬まつりin記念館	高知県立坂本龍馬記念館	令和2年11月15日(日)
	史跡巡り・ウォーキングイベント 「高知のまちと幕末人物銅像めぐり」	高知県立坂本龍馬記念館	令和2年12月6日(日)
	連続講演会「幕末再考-変革への計と実践」 第4回毛利敬親の藩政改革」	高知県立坂本龍馬記念館	令和2年12月12日(土)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知県立埋蔵文化財センター	998	開館30周年の特別展として、30年間の発掘調査から明らかになった高知県の考古学研究の成果を紹介しました。観覧者の感想から地域の歴史への興味と感心の高さをうかがうことができました。
高知県立坂本龍馬記念館・新館1階ホール	49	佐川町出身の志士田中光顕について、佐川町立青山文庫の藤田有紀学芸員にお話しいただいた。今までまとまって生涯や業績を聞く機会のなかった人物であり、貴重な話を聞けたという声も多かった。
高知市文化プラザかるぽーと他	1,000	かるぽーとをメイン会場として、県内高等学校文化部生徒が発表等を披露した。コロナ禍により、ステージ部門と競技部門は無観客開催としたが、展示部門は感染防止対策を講じて一般公開とし、例年並みの来場者数となった。
高知県立坂本龍馬記念館	1,327	今年は11月15日の開館記念日と「龍馬まつり」が同日になった。「長宗我部鉄砲隊」による火縄銃一斉射撃の公開訓練は、多くの方が見学に来られた。開館記念日として入館無料のため、館内も大いに賑わった。
【集合】JR入明駅 【解散】JR高知駅	19	JR入明駅「志の龍馬像」からJR高知駅前「三志士像」まで、「板垣退助像」など幕末人物の銅像を学芸員の解説を聞きながら、ウォーキングを楽しんだ。「今まで気づかなかった」と町中の歴史を再発見された参加者も多かった。
高知県立坂本龍馬記念館・新館1階ホール	44	ドラマ等の影響でよい印象の少ない長州藩主・毛利敬親の人となりや藩政改革について、小山良昌氏(毛利博物館顧問)にお話しいただいた。県内での毛利敬親の詳しい講演は初めてであり、勉強になったというお声も多かった。

◎協賛行事

※ 記載内容は原則として事業実施報告書の記載に則しています。
※ 開催日（部門別）の順に掲載しています。 ※参加者数は、芸術祭会期中内での集計となります。

部門名	行事名	主催団体	日 程
演劇	高知市こども劇場低学年例会 人形劇団ひとみ座公演「はれときどきぶた」	(特非) 高知市こども劇場	令和2年9月22日(火・祝)～ 9月23日(水)
	劇団TRASHMASTERS第32回公演 「埋没」四国ツアー高知公演	(公財) 高知市文化振興事業団	令和2年10月22日(木)～10月23日(金)
	細川貴司 演劇ワークショップ	ヨシダワークス	令和2年11月16日(月)～11月22日(日)
舞踊・ダンス	Masako Ballet Works 10th Anniversary Performance	マサコ・バレエ・ワークス	令和2年10月31日(土)
	Modern Ballet Studio SPROUT 発表会	Modern Ballet Studio SPROUT	令和2年11月23日(月・祝)
音楽	神保彰ワンマンオーケストラライブ 全国行脚2020	(公財)高知市文化振興事業団	令和2年9月12日(土)
	下八川圭祐記念 第44回高知音楽コンクール	(公財) 高知新聞厚生文化事業団	令和2年11月3日(火・祝)
	絃に魅せられて七十五年 地歌箏曲演奏会	菊由瀬会	令和2年11月7日(土)
	第6回ヤマハジュニアピアノコンクール ～高知西地区予選大会～	ジュニアピアノコンクール 実行委員会	令和2年11月8日(日)
	三曲演奏会	高知県三曲協会	令和2年11月8日(日)
	第28回高知県民謡まつり	高知県民謡協会	令和2年11月23日(月・祝)
	都山流尺八高知県支部 令和2年度 定期演奏会	都山流尺八高知県支部	令和2年11月23日(月・祝)
	山村誠一ミュージックショー 祝☆還暦	(公財) 高知市文化振興事業団	令和2年11月26日(木)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知市文化プラザかるぽーと・ 小ホール	204	この破天荒な物語は人形劇で表現するにはピッタリでした。ありえないことが起こるおもしろさを描いたこの原作小説は30年も前のものですが、今でも子どもたちの楽しむ心を揺さぶるようです。なつかしむおとなたちも少なからず。
高知市文化プラザかるぽーと・ 大ホール	365	「埋没」は、早明浦ダム建設に反旗を翻し激しく抵抗した大川村の人々の様子をシリーズに描き、人間の弱さや強さが見られ、観劇した者が自己の内面と向き合い自らに問いかける、そんなことを考えさせられるお話しでした。
蛸蔵	52	高知出身の俳優・細川貴司による演劇ワークショップを開催した。 1週間という長期間で、俳優に必要な発想や、基礎訓練について丁寧に学び、参加者からも「今後の自身の表現活動にとって、非常に貴重な機会となった」といった感想をいただいた。
高知県立美術館ホール	300	スタジオ設立10周年の節目の今回は、それぞれがよりレベルアップを目指し、ヴァリエーションに挑戦し、クラス作品では皆で作品を創りあげる過程を学びました。 コロナ禍ということで普段と違うことも多々ありましたが、開催2週間前に県の方から満席許可があり、客席上限の約8割の方に観ていただくことができ、たくさんのお客様から好評を得ました。
高知県立県民文化ホール・ オレンジ	700	第1部「ピンポンパンだよ!ピン」 第2部「ライオン・キング」
高知市文化プラザかるぽーと・ 小ホール	65	「ワンマンオーケストラ、というタイトルのとおり、メロディーやアンサンブルも一人でたたき出し、ドラム以外のサウンドも同時に奏でるパフォーマンスは、見る者、聞く者を、あっと驚かせました。コロナ禍でなければ、立ったり踊ったり、クラブのような雰囲気になっていたのでは、と思うと残念です。
高知県立県民文化ホール・ グリーン	200	県内唯一の総合的クラシック音楽コンクールで、打楽器、弦楽器、管楽器、声楽、ピアノの部門があります。今年是一般8名、高校生23名、合わせて31名の方から参加申し込みがあり、下八川賞2位、3位、高知音楽奨励賞5名、合わせて8名が受賞しました。
高知県立美術館ホール	200	新型コロナウイルス感染症対策の為、3分の2程度の席数で開催しました。ゲスト演奏家と共演させて頂いたことで、門人、賛助人ともに気持ちがかもった演奏となりました。
四万十市立文化センター・ 大ホール	25	高知西地区幼～中学生ピアノ学習者が(今回は小学生のみの参加でした。)学習の成果を発表する場として、日頃から練習を積んだ任意曲を演奏。4名を1次審査(Web)へ推薦させていただきました。
高知県立美術館ホール	73	会員提曲7曲、ゲスト曲4曲合わせ11曲の演奏をおこないました。ゲストの素晴らしい演奏、会員の熱演もあり演奏会終了後お帰りの皆様からご好評の声を多く頂きました。コロナウイルス感染症の影響で入場者数が非常に少なかったのは残念でした。
高知県立美術館ホール	70	コロナ禍の為、出演者も少人数になり練習も限られて、十分な発表会にはなりませんでした。
高知市文化プラザかるぽーと・ 小ホール	70	「三曲演奏」を県民の皆さんに広くご紹介することを目的に開催しました。 演奏曲は尺八曲が3曲、糸方との合奏曲が8曲、合わせて11曲としました。尺八独奏曲、少人数や多人数での合奏曲を演奏いたしました。演奏の形式に変化を持たせ糸方のご協力も得て内容のある演奏会となりお客様に楽しんでいただけたと思います。
高知市文化プラザかるぽーと・ 小ホール	87	定員の半分以下の客席数での開催でしたが、大阪公演だけの出演者も演奏する嬉しいサプライズのほか、出演者も久しぶりのライブにトークが止まらず、演奏中はコール&レスポンスの代わりに手拍子で盛り上がりました。

部門名	行事名	主催団体	日 程
音楽	第7回なとわ大感謝コンサート	(特非) なとわ	令和2年12月1日(火)
	第9回高知の音楽活性化事業 「泉真由×松田弦 凱旋コンサート」	(公財)高知市文化振興事業団	令和2年12月5日(土)
美術	令和から見えてきた昭和 武吉孝夫写真展	香美市立美術館	令和2年8月1日(土)～10月11日(日)
	現代作家20名の明るく、楽しく、頑張るぞー展	白木谷国際現代美術館	令和2年8月1日(土)～10月20日(火)
	第29回のいち動物公園写真コンテスト作品展	(公財) 高知県 のいち動物公園協会	令和2年9月6日(日)～ 11月3日(火・祝)
	いの町紙の博物館特別展 「立版古～元祖日本のペーパークラフト展～」	いの町紙の博物館	令和2年9月9日(水)～10月4日(日)
	いの町紙博物館特別展 秋の山野草展(9月)	いの町 山野草保存会	令和2年9月25日(金)～9月27日(日)
	第29回モラード会展	モラード会	令和2年10月2日(金)～10月25日(日)
	いの町紙の博物館特別展 秋の山野草展(10月)	山野草保存会	令和2年10月7日(水)～10月11日(日)
	第61回室戸市美術展覧会	室戸市	〈一般の部〉 令和2年10月27日(火)～11月1日(日) 〈小・中学校の部〉 令和2年11月3日(火・祝)～11月8日(日)
	第32回Tシャツアート展	(特非) NPO砂浜美術館	令和2年10月31日(土)～ 11月3日(火・祝)
	はじまり、それから、おわり	香美市立美術館	令和2年10月31日(土)～12月20日(日)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知県立美術館ホール	200	コロナ対策と、新しい活動の形へのチャレンジのため、無観客でのコンサートを実施、撮影し、後日YouTubeでの配信とご希望の方へDVDを配布させて頂きました。いつも楽しみにしてくださっている県民の皆様をはじめ、私たちの活動を初めて知りました、というお声も頂き、お客様とスタッフの安全を確保しつつ楽しい企画ができたことは大きな成果だったと思います。一時は中止も考えましたが、開催できて本当に良かったです。
高知市文化プラザかるぼーと・大ホール	370	ディスタンス席(ひと席ずつ間隔を空けた客席収容率50%のこと)で1・2階ほぼ満席になるほどのご来場をいただきましたが、実際にチケットをお持ちの方で、約50名の方が来場されていないことも分かり、少なからずコロナの影響を受けたかたちになりました。
香美市立美術館	2,219	今回で2回目となる高知市の風景写真は、大変好評で多くの方が熱心に鑑賞されました。今回の特長は、昭和51年と同じ場所で平成に再び撮影した写真を比較する内容が、より幅広い年代の方楽しめる展示でした。コロナ禍の中、美術館で夢中になれる時間は何より貴重なものだと思います。
白木谷国際現代美術館	138	第46回白木谷国際現代美術館企画展として「現代作家20名の明るく、楽しく、頑張るぞー展」を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、入館者数は伸びなかったが、作品を鑑賞された方からは好評を得られたと感じている。
高知県立のいち動物公園・どうぶつ科学館	9,053	今回は、60名153点の応募があった。高校生の応募が少なく、応募作品は、前年よりも78点減少したが、例年に劣らずハイレベルであった。応募人数では、37名減であったが、作品展を開催でき、来園者にご観覧いただいた。
いの町紙の博物館	1,464	紙の博物館で初の展示ということで、現在では失われてしまった立版古という文化を多くの人々に知ってもらうことができた。特に、秋の社会科見学の関係で多くの小学生が来館しており、興味を持って立版古に親しんでもらうことができた。
いの町紙の博物館	320	多種多様な山野草を展示・販売することで栽培技術の向上及び愛好の輪が広まった。
いの町立公民館	30	今回の研究発表は、困難な時世の問題あり、環境管理の良い、いの町の公民館とし改造された展示室で行った。内容は、和紙絵、油彩、水彩、デッサン、自由創作でしたが、ケースの中での展示室でしたので受付なしで創作者、一般の方とで静かな展示発表でした。創作内容は好評でした。
いの町紙の博物館	309	多種多様な山野草を展示・販売することで栽培技術の向上及び愛好の輪が広まった。
室戸勤労者体育センター	1,715	「一般の部」では洋画20点、日本画10点、書道(漢字)21点、書道(仮名・調和体)12点、写真35点、彫塑・工芸・デザイン14点、陶芸30点、漫画11点の出品があった。「小・中学校の部」では2,116点の出品があり、会期中は1,715人の来場があった。
砂浜美術館 (黒潮町・入野の浜)	7,917	感染症の影響に伴い、10月に延期となったが、天候に恵まれ、7,917人の来場があった。913点のオリジナル作品を中心に、開放的な砂浜での展示を来場者楽しんでもらった。
香美市立美術館	863	当館の収蔵作品活用の一環として企画した展覧会が外部からの方々の力作も相まって充実した展示になり、来館者の満足度も高かったようでした。今後も収蔵作品と外部の作品を合わせて楽しめる企画をしていきたいと思っています。

部門名	行事名	主催団体	日 程
美術	第11回高知国際版画トリエンナーレ展	土佐和紙国際化実行委員会	令和2年10月31日(土)～12月26日(土)
	公募作品展 第22回OURギャラリー展	(公財)やなせたかし記念 アンパンマンミュージアム 振興財団	令和2年11月14日(土)～ 令和3年1月11日(月・祝)
	第26回潮風のキルト展	(特非)NPO砂浜美術館	令和2年11月21日(土)～ 11月23日(月・祝)
	どんどこ!巨大紙相撲大会	どんどこ!巨大紙相撲 実行委員会	令和2年11月23日(月・祝)～ 令和3年1月17日(日)
映画	映画『“樹木希林”を生きる』上映会	シネマ四国	令和2年9月17日(木)
	第191回市民映画会「ベル・カント」 「おしえて!ドクター・ルース」	(公財)高知市文化振興事業団	令和2年9月24日(木)～9月25日(金)
	シネマの食堂2020 映画『イエスタデイ』と夜は野外上映	高知県映画上映団体 ネットワーク	令和2年9月27日(日)
	『プリズン・サークル』上映会&坂上香監督・ 加藤誠之(元少年院の法務教官)さんトーク	いのちつなぐ	令和2年10月3日(土)
	映画『人生フルーツ』字幕付き上映会	シネマ四国	令和2年10月15日(木)
	『ぼけますから、よろしくおねがいします』 高知上映会	いのちつなぐ	令和2年10月17日(土)
	映画『神宮希林～わたしの神様』上映会	シネマ四国	令和2年10月29日(木)
	第192回市民映画会「ペイン・アンド・グローリー」 「15年後のラブソング」	(公財)高知市文化振興事業団	令和2年11月6日(金)～11月7日(土)
	映画『ようこそ、革命シネマへ』上映会	とさりゅう・ピクチャーズ	令和2年11月12日(木)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
いの町紙の博物館	6,760	本展は、和紙文化と版画文化のさらなる発展を目的とした国際公募の版画展です。今回は新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の会期を3週間ほど延期して開催することになりました。国内外合わせて458名より1019点の作品が応募され、厳正なる審査によって選ばれた19点の入賞作品と82点の入選作品が展示されました。
香美市立やなせたかし 記念館・別館	2,616	「つなぐ」をテーマに詩と絵をかいた、はがきサイズの作品を公募し、寄せられた全438点を展示した。コロナ禍の中、大切な人との絆を表現した作品などが並び、多くの方とのつながりを感じることのできる展覧会となった。
砂浜美術館 (黒潮町・入野松原)	1,239	全国から公募した大小様々なキルト作品を松原に展示。会期中は、会場で「松原の小さな音楽会」などのイベントも開催。らっきょうの花が見ごろの時期に、秋の砂浜美術館を楽しんで頂くことができた。
佐川町立桜座	参加者102 視聴者672	コロナ予防のため大会は、力士制作者以外は入場できない無観客試合での開催となった。参加すること自体が楽しいプログラムであるために、人が集まることを規制された状況でどのような参加方法を開発し提供できるかが事業の成功の鍵だった。今回インターネットからの参加可能コンテンツを複数開発したが、とても好評だった。
高知県立美術館ホール	380	高知県未上映の作品で、2018年に亡くなった樹木希林さんの最後の1年に密着した映画です。日程を延期して9月17日の上映となりました。「希林さんの違う一面が見れてよかった。」など、とても好評でした。
高知市文化プラザかるぽーと・ 大ホール	330	コロナ禍の中、6月に上映予定であった2作品を延期して開催しました。楽しみに待っていたとの励ましもいただき、感染対策でご不便もおかけしましたが、満足度の高い上映会となりました。
高知県立美術館ホール	278	シネマの食堂メイン上映会として「イエスタデイ」を、昼の部はホール上映、夜の部は中庭での野外上映会として実施しました。ノリのいい映画で、野外上映会も、天気に恵まれ最高のコンディションで実施できました。
高知市立自由民権記念館・ 民権ホール	176	高知県人権啓発センターのふれあい支援事業により、入場無料で坂上香監督によるドキュメンタリー『プリズン・サークル』の上映と監督トークを行った。暴力の連鎖を止めることと暴力からの回復について考える機会を望む感想が多く寄せられた。
高知県立美術館ホール	308	再上映の要望の多い「人生フルーツ」を今回は、聴覚障害者字幕付きで上映しました。日程を延期して10月15日の上映となりました。「ずっと楽しみにしていた。」など、たくさんの方に鑑賞いただきました。
高知県立美術館ホール	107	認知症の患者を抱えた家族の内側を、娘である信友直子監督が撮影したドキュメンタリー『ぼけますから、よろしくおねがいします』を3回上映し、介護家族や自身の今後と重ねて観た方等107名の来場があった。
高知県立美術館ホール	289	2013年の伊勢神宮の遷宮に合わせて“お伊勢参り”をする樹木希林さんに密着した映画です。日程を延期して10月29日の上映となりました。お客様にとっては、待ちかねた上映会で、とてもいい上映会となりました。
高知市文化プラザかるぽーと・ 大ホール	358	9月の映画会に続き、コロナ禍で開催となりましたが、前回の参加者も多くいらっしまったことから、比較的スムーズに感染対策を実施できました。「ペイン・アンド・グローリー」の色彩美も大画面で楽しんでいただけました。
高知県立美術館ホール	100	映画が人々に必要だということがよく伝わってくる映画で、人数は少なかったですが、観た方からは、現在のコロナの状況を重ね、映画実施に対して応援のメッセージをいただきました。

部門名	行事名	主催団体	日 程
映画	シネマな夜VOL. 246「シェイクスピアの庭」	シネマ・サンライズ	令和2年11月16日(月)
	七尾旅人『兵士A』高知上映会	シンフォニア0311	令和2年11月21日(土)
映像	第13回さかわ・酒蔵ロード劇場2020	酒蔵ロード劇場実行委員会	令和2年11月14日(土)～12月15日(火)
文芸	しきなみ短歌の世界 初めての短歌教室	家庭倫理の会・高知	令和2年11月3日(火・祝)
伝統文化	伝統文化音楽地唄、箏曲、尺八本曲演奏会 「純邦楽 今・昔聴きくらべ」より	琴古流尺八竹童社藤寿会 高知支部	令和2年11月3日(火・祝)
	八代青年奉納歌舞伎	八代青年団	令和2年11月5日(木)
	秋の出会い茶会	有限会社特選呉服いしはら	令和2年11月29日(日)
総合文化	ほうかですたじお	あにめのいろは	令和2年7月4日(土)～ 令和3年3月27日(土) ※毎週土曜日、月4回開催
	第16回 四万十市文化祭	四万十市文化祭執行委員会 (共催:四万十市・ 四万十市教育委員会)	令和2年8月9日(日)～12月20日(日)
	Talent Blossom	The Animation Workshop、 あにめのいろは	"3-Day: 令和2年9月6日(日)、 13日(日)、20日(日)の3日間 1-Day: 令和2年10月4日(日)"
	令和2年度 第49回高知県教育文化祭	高知県教育文化祭運営協議会	令和2年10月6日(火)～11月6日(金)
	第25回宿毛市オールドパワー文化展	宿毛市教育委員会、 宿毛市老人クラブ連合会、 宿毛市文化協会	令和2年10月16日(金)～10月18日(日)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知県立美術館ホール	219	コロナ禍ではありましたが、様々な自粛や行動規制の中で、優れた作品に接したいという文化的欲求を募らせていた方が多かったのではないのでしょうか。平日一日のみの上映でしたが、219名の皆さんにご覧いただくことが出来ました。知られざるシェイクスピアの晩年を通して、芸術(非日常)と日常生活との拮抗、父親の仕事のために犠牲を強いられた家族、そうした家族の絆の再生といった問題が、シェイクスピア劇を見るように至って人間臭く描かれた作品でした。
高知市立自由民権記念館・民権ホール	20	高知出身の七尾旅人のライブ映像作品『兵士A』を上映し、20～90代の幅広い年齢層から20名の来場があった。兵士Aから戦争・紛争・核・災害・貧困・差別・オリンピック・高知の詩人槇村浩等について考える感想が寄せられた。
酒造の道(動画配信)	2,601 ※再生数	江戸時代の風情を残す白壁の建物に絵画などの芸術作品を投影するイベント。今年は、コロナウイルス感染防止のため、無観客による動画配信で開催した。幅広い地域、年齢の方に視聴いただくことができた。
高知市立自由民権記念館・研修室	40	敷居の高かった短歌が親しみやすくなった。短歌を曲に合わせて歌う事で心に響き感動した等。短歌作りの体験や鑑賞を楽しみ、また小・中学生から高齢の方まで幅広い参加者により温かく和やかな教室となった。作歌により、感謝や喜びの心が沸き生活や心が潤っていただきたいと主旨に添えた。
南国市立岡豊ふれあい館	26	コロナ禍でスタッフ視聴者を含め50名定員で開催した。思いの外準備席が埋まり安心した。感染症対策助成金活用により充分とはいえないが対策を施し客席と舞台間隔3m以上、席の前後左右2m間隔であった為、安心出来た様だ。
八代八幡宮 回り舞台	100	今年はコロナ対策を実施しながらの開催となり、来場者数は例年の3分の1となった。感染予防の観点から、大きな声援もおひねりも禁止したためなかったが、良い芝居には大きな拍手があった。
高知市文化プラザかるぼと・和室	98	薄茶席-高橋宗由先生(裏千家)花席-武内範男先生(元畠山記念館主任学芸員)の両先生による、お席を設えていただき、薄茶席では季節の道具の取合せと薄茶一服を楽しみ、花席では様々な花器や古民具へ花を生け、雅な空間で香を楽しんでいたかったです。コロナ禍で茶会が全く無くなった2020年でしたので、久しぶりの茶会と花席、香に参加者の方から「楽しかった」「高知でこんな花席が見れると思わなかった」という声をいただきました。
大月町社会福祉協議会 ほっとセンター	150	これまで3 ～ 70 歳くらいまでの延べ約 150 人が、お絵かき、工作、アニメーション表現、また外国語やIT機器に親しむ機会となり、保護者の交流も生まれました。地域の病院で作品を展示中で、来年度の計画も進めています。
四万十市立文化センター、 田野川小学校体育館、その他	2,605	今年度の文化祭は、期間中、20団体が参加し、約2,605人の入場者数がありました。事故などなく無事に終了することができました。
オンライン (Zoom)	17	Zoomを使って、大月町とビボー(デンマーク)で3-DAYと1-DAYのドローイング講座を行いました。県内外から幅広い年齢の方が国際的な交流を楽しみながら、静物や人物の描画の基礎を学び、明らかな描画技術の上達も見られました。
高知市文化プラザかるぼと、 高知県教育センター、 中小企業会館多目的ホール	2,500	県芸術祭の期間中「定・通信生徒生活体験発表会」「吹奏楽祭」「高校理科研究発表会」「児童生徒発明くふう展」「英語弁論大会高校の部」を開催することができた。コロナ禍の厳しい状況の中であったが、発表内容も例年に増してレベルの高いものとなった。
宿毛市立宿毛文教センター	628	文化展の出品数は82点。今年は地元音楽家が生演奏で盛り上げてくれ、生演奏のBGMを聞きながらの展示会を行い、展示会と演奏会の相乗効果で、これまでで最高の来場をいただいた。

部門名	行事名	主催団体	日 程
総合文化	第47回いの文化祭	伊野地区文化協会	令和2年10月31日(土)～11月1日(日)
	海ギャラChill Out ～竜串に東大から遍路小屋が旅して来る～	海ギャラChill Out実行委員会	令和2年11月7日(土)～11月29日(日)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
芸能部門:いのホール 展示部門:伊野公民館	250	新型コロナウイルス感染症に備えて、新聞折込みのプログラムの廃止など宣伝を少なめにした。そして、7団体の出演や出展の取りやめがあった。しかし、半数にした観客席が埋まり、出演者も生き生きとし、楽しいひと時であった。
海のギャラリー	1,000	木質作品展示「旅する遍路小屋」をメインに関連プログラムを複数実施しました。建築文化への橋渡しができた他、多様な参加主体の交流が生まれ、建築や食文化といった地域文化の現在を知る機会にもなりました。

「KOCHI ART PROJECTS」助成金 (新型コロナウイルス感染症対策)

新型コロナウイルスの感染拡大により、活動自粛を余儀なくされた県内の文化芸術関係団体などが、その活動を再開・継続する際に求められる感染防止対策に必要な経費を支援するため、「KOCHI ART PROJECTS」助成金(新型コロナウイルス感染症対策)交付要綱に基づき助成金を交付します。

《一次募集 令和2年7月22日(水)～8月26日(水)》
《二次募集 令和2年9月16日(水)～3月 9日(火)》

KAP助成金(新型コロナウイルス感染症対策)を申請する際の留意事項

1 助成金の概要 (詳細は、助成金交付要綱をご覧ください。)

対象者 高知県内に事務所または活動拠点を有し、高知県芸術祭の開催期間中(令和2年9月12日～12月15日)に協賛行事として文化芸術活動を行う団体(県、市町村等を除く)、個人及び芸術祭終了後(令和2年12月16日)から令和3年3月31日までの間に文化芸術事業を行う団体、個人が対象です。

※芸術祭終了後に文化芸術事業を行う場合は、過去5年間に於いて複数回の事業実績が必要となります。
※事業が長期にわたる可能性のある場合には、ご注意ください。

対象事業 次の要件のすべてに適合するものとします。

1. 新型コロナウイルス感染症対策を行って高知県内で開催される文化芸術活動であること。
2. 当該助成金以外に国及び地方公共団体等からの新型コロナウイルス感染症対策にかかる助成金・補助金等を受けない事業であること。
3. 興行その他専ら営利、宣伝を目的としないもの。
4. 特定の政治又は宗教活動を目的としないもの。

助成金の額及び助成対象(外)経費 助成金交付要綱の別表 をご覧ください。

2 申請の手続き等について

申請方法 封筒の表に「KAP助成金(新型コロナウイルス感染症対策)申請書在中」と朱書きのうえ、所定の申請書類を高知県芸術祭執行委員会事務局まで郵送または持参してください。
なお、メール、FAXでの申請は受け付けできませんので、ご注意ください。

必要書類 次に掲げる書類を添えて申請してください。
1. 交付申請書(第1号様式)
2. 収支予算書(第2号様式)
3. 事業内容がわかる資料(写真、イメージ図可)
4. 芸術祭終了後に事業を実施する場合は、過去5年間に複数回の文化芸術事業を実施したことが確認できる資料

(注)1～2の申請書類は、芸術祭公式ホームページからダウンロードして頂くか、事務局までお越し願います。
なお、申請書類は原則返却いたしませんので必要な場合はコピーをお願いします。

交付決定 申請書類をもとに書類審査を実施のうえ、審査結果については9月中旬頃までに、全ての申請団体または個人に郵送にてお知らせします。

(注)当該申請者が、4頁の助成金交付要綱の別紙(第2条、第6条関係)に掲げるいずれかに該当すると認められる場合は、決定の通知後であっても助成金の交付の決定を取り消す場合があります。

事業の変更または中止 やむをえず事業内容(開催日、会場等)を変更または中止する場合は、速やかに電話、メール等で事務局に連絡のうえ、変更承認申請書(第3号様式)または中止届出書(第4号様式)を提出し、承認を得る必要があります。必要な手続きを怠ったときは、助成金の交付の決定を取り消す場合があります。

! 助成金の交付に関する注意事項

- (1) 申請内容に虚偽があることが判明したとき
- (2) 活動の実施、継続が困難であると委員長が判断したとき
- (3) 実施報告内容に虚偽があることが判明したとき
- (4) 正当な理由なしに証拠書類等が所定の期間(当該事業の完了後5年間)、保存されていないとき
- (5) その他、要綱の定めに違反したとき

次のような場合は、助成金の交付の決定後または交付後であっても、助成金の全額または一部について交付の取り消しや変更、返還を求める場合があります。

3 事業終了から助成金の交付まで

実施報告書の提出 会計の区分経理を実施したうえで、助成対象事業の終了後1カ月以内に下記資料を提出してください。

1. 実施報告書(第5号様式)
2. 収支決算書(第6号様式)(注)収支の証拠書類(領収書のコピー等)を添付すること。
3. 当該事業の実施状況がわかる資料(写真、パンフレット、新聞記事等)

(注)必要となる領収書のコピー等を提出していただきますが、助成対象事業の収入支出の帳簿及び証拠書類は5年間保存し、必要に応じて提出できるようにしてください。なお、保管不備の場合、助成金の返還を求める場合もありますのでご注意ください。(必要な場合は、立ち合いのもと確認させていただきます。)

助成金の交付 実施報告書の提出により内容を審査のうえ、助成金額を確定し確定通知書をお送りします。
確定通知書を受け取ったときは、請求書(第7号様式)を10日以内にご提出ください。請求書の受理後、2週間以内に指定口座にお振込みします。

(注)助成対象経費が申請時より減少した場合などには、事業実施後の収支決算書に基づき確定額が減額となる場合があります。

※一次募集時の募集案内です。

高知県芸術祭執行委員会 委員名簿

(任期:令和2年4月1日～令和5年3月31日)(五十音順・敬称略)

役 職	氏 名	所属職名等
委 員 長	新納 朋代	(株)テレビ高知編成業務局編成業務部長
副委員長	井奥 和男	(公財)高知県文化財団理事長
委 員	上本 竹永	高知県文化協会事務局長
委 員	奥野 克仁	高知県立美術館学芸課長兼石元泰博フォトセンター長
委 員	北村 真実	NPO法人こうち音の文化振興会理事長
委 員	高橋 英生	高知県立県民文化ホール館長
委 員	津田 加須子	高知県立文学館学芸課長
委 員	溝渕 博彦	NPO高知文化財研究所代表
委 員	森田 佳余	(公財)高知県観光コンベンション協会プロモーション部チーフ
委 員	吉岡 一洋	高知大学人文社会科学系教育学部門准教授

ご自身や周りの方、そして地域を感染拡大から守るため、
新しい生活様式を実践することで
芸術祭を楽しもう!

1 social distance
2 wearing a face mask
3 washing hands hand disinfection

1 身体的距離の確保
できるだけ2m(最低1m)空ける

2 マスクの着用
症状がなくてもマスクを着用する

3 手洗い、手指消毒の徹底
水と石けんなどで丁寧に洗う

高知県イメージキャラクター
くろしおくん